

徳島県立博物館年報

第18号 (平成20年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 18 (for the fiscal year of 2008)

目 次

I 資料の収集・保存と活用

1. 採集資料……………2
2. 購入資料……………2
3. 寄贈資料……………2
4. 寄託資料……………3
5. 資料の貸し出し……………4
6. 写真・映像の提供……………4
7. 資料の提供……………5
8. 資料の交換……………5
9. 館蔵資料数……………5
10. 資料収集委員会……………5
11. 文献資料の収集……………6
12. 資料の保存……………6

II 調査研究

1. 課題調査……………8
2. 分野別（個別）調査研究……………9
3. 科学研究費補助金による研究……………11
4. 他機関との共同研究……………11
5. 研究成果の公表……………11

III 展 示

1. 常設展……………16
2. 企画展……………17
3. 特別陳列……………21
4. 館外での展示……………22
5. 常設展の活性化に向けての取り組み…23
6. 展示関係出版物……………24

IV 普及教育

1. 普及行事……………25
2. 学校教育支援事業……………28
3. 博物館友の会……………31
4. 普及教育関係出版物……………32
5. 徳島新聞「子ども新聞」への協力…32

V シンクタンクとしての社会貢献

1. レファレンス業務……………33
2. 各種委員会委員等の受諾……………33
3. 講師の派遣……………34
4. 大学教育への寄与……………35
5. 学会・研究会等の運営への寄与…36
6. 博物館ネットワーク……………36

VI 情報の発信と公開

1. 博物館の広報活動……………38
2. テレビ・ラジオへの出演等……………38
3. インターネットによる情報提供…39
4. 外部ネットワークとの連携……………40
5. 情報システムの概要……………40

VII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員……………42
2. 予算……………42
3. 博物館協議会……………43
4. 県民参加の仕組みづくり、博物館運営
支援組織のあり方等の検討……………43
5. 視察等博物館関係来訪者……………45

VIII 中期活動目標と自己点検・評価

1. 中期活動目標……………46
2. 20年度実績と自己点検・評価……………51

IX 観覧者統計……………63

X 施設の概要

1. 沿革……………66
2. 施設の概要……………66
3. 博物館各室面積……………68

XI 例 規……………70

I 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

- 1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- 2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- 3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- 4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

19年度は4名（人文2、自然2）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた（人文課の1名は鳥居記念博物館での資料整理を担当した）。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

那賀川水系谷内川産魚類	多数
鳴門市大津町産魚類	多数
牟岐川水系産魚類	多数
文化の森周辺用水路魚類	多数
タヌキ	1点
アオジ	1点
タヌキ	1点
ハツカネズミ	1点
タヌキ	1点

●動物（無脊椎動物）

スズミグモ	2点
鳴門市土佐泊浦竜宮の磯の甲殻類	多数
勝浦川河口干潟の甲殻類	多数

●動物（昆虫）

アオスジアゲハ	1点
---------	----

アオイラガ幼虫	9点
アブラゼミ抜け殻	20点
カメムシ類	102点
ミナミアオカメムシ	106点
徳島市産トンボ類	9点
モンズズメバチ	5点
吉野川河口干潟産昆虫類	50点
プラタナスグンバイ	多数
ヘクソカズラグンバイ	多数
マルグンバイ類	多数
徳島県産海浜性半翅類	多数

●植物

県内各地の標本	多数
海浜植物標本	多数

●地学

県内および北海道産白亜紀動物化石	多数
鹿児島県・高知県・石川県・沖縄県産第三紀～第四紀化石	多数

2. 購入資料

なし。平成17年度より資料の購入は行われていない。

購入資料合計 0点

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

オオタカ	1点	徳島県自然共生室
国土交通省水辺の国勢調査標本(吉野川柳瀬ダム湖・四万十川産魚類)	多数	西日本科学技術研究所
カミツキガメ	1点	徳島県動物愛護管理センター
剣山カモシカ画像	7点	森 一弘氏
香川県産カワバタモロコ(活)	10点	橋本佳樹氏
シマヘビ(黒化型)	1点	文化の森ビルメンテナンス
カワセミ	1点	広沢俊昭氏
キビタキ	1点	池光由貴子氏
シュレーゲルアオガエル画像	2点	溝内正剛氏

ミサゴ画像	5点	竹嶋芳明氏
静岡県産ヨウジウオ類標本	2点	北原佳郎氏
オオクチユゴイ	1点	石田達憲氏
香川県産カワバタモロコ(活)	4件	橋本佳樹氏
志和岐川産オオウナギ画像	2点	久次米美実氏
タイリクオオカミ剥製	1点	並川節二氏
ワニ類剥製	1点	平和記念塔パゴダ
カルガモ	1点	茨木春香氏
カワセミ	1点	
		文化の森ビルメンテナンス
イノシシ	1点	浜渦正光氏
四万十川産イワナ	2点	坂本匡祥氏
タヌキ	1点	池光自動車
吉野川水系産ドジョウ	2点	田代優秋氏
タイマイ剥製	1点	田中成士氏
徳島市河川産魚類標本	多数	安田富明氏
ノゴマ	1点	前田照代氏
ハクビシン	1点	とし動物病院
アカウミガメ剥製	1点	徳島県大阪事務所
静岡県産ヒナモロコ標本	6点	北原佳郎氏
オヤニラミ(活)	4件	日亜化学環境整備室
アオゲラ	1点	高橋勢治氏
アユカケ(活)	1点	寿し久兵衛
メジロ	1点	鎌田磨人氏
キツネ	1点	勘場瀬タカシ氏
愛媛県千丈川産ハゼ科魚類標本		
	6点	辻 幸一氏
メカジキ吻	1点	向原敬夫氏
キセキレイ	1点	文化の森ビルメンテナンス
●動物(無脊椎動物)		
トビズムカデ	2点	魚島純一氏
●動物(昆虫)		
動植物顕微鏡写真	800点	木村 章氏
ヘクソカズラグンバイ	多数	行成正昭氏
ヒメハルゼミ抜け殻	20点	丸山直生氏
ヒメタイコウチ	5点	林 正美氏
ミナミアオカメムシ	5点	高井幹夫氏
ミナミアオカメムシ	5点	後藤昭文氏
クロメンガタスズメ	1点	遠藤憲佑氏
クロマダラソテツシジミ	5点	豊崎 勲氏
ベニトンボ	4点	豊崎 勲氏
●植物		
徳島県産標本	3点	佐治まゆみ・成田愛治氏
徳島県産標本	2点	田渕武樹氏
沖縄県産イネ科標本	21点	船越英伸氏
カヤツリグサ科標本	1点	中村喜代治氏
キイチゴ属標本ほか	多数	鳴橋直弘氏

徳島県環境調査証拠標本	多数	県土連
菅島産ススキ	1点	織田二郎氏
北米産植物標本	140点	オレゴン州立大学(OSC)
北海道産植物標本	136点	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、植物園(SAPS)

●地学

野々脇鉱山産キースラガー他岩石・鉱物標本	52点	阿部 肇氏
ゾウ臼歯ほか古脊椎動物関係資料		
	16点	亀井節夫氏
香川県雨滝山産ガーネット	15点	森 繁氏
ブラジル産珪化木	1点	古川一郎氏
栗坂層産アタクシオセラス	1点	香西 武氏
穴内層産ホホジロザメ歯化石	1点	中尾佳子氏
和歌山県産アナハムリナ化石	1点	小島郁生氏
世界の青石	6点	岩崎正夫氏
掛川層群大日層産貝化石	2点	嵐 順一氏
勝浦町ほか産中生代・新生代化石		
	21点	平島 昭氏
東京都・山梨県産新生代貝化石		
	5点	吉田浩一氏

●考古

瓦類・須恵器類ほか	94点	
		徳島県立徳島工業高等学校

●歴史

精密化学天秤ほか	17点	神田精一氏
徳島藩藩札	7点	福田二郎氏
徳島城西の丸欄間ほか	5点	
		徳島県立徳島工業高等学校

●民俗

民俗資料	171点	横山甲太郎氏
博覧会関連資料	461点	笠井秀明氏
人形浄瑠璃関係資料	41点	山川良祐氏
からさお、筵編み	3点	妹尾健司氏
ハウフリマンガ、斗升	2点	久米忠雄氏
竹製民具ほか	13点	田中廣美氏
からさお	1点	近藤佳節氏
醤油用漉し器、藤籠、遊山箱、カルサワ		
	4点	徳島市千松小学校
石臼、杵ほか	22点	木村 章氏
からさお、セオイ	2点	久米武義氏
神山町郷土研究関係資料	133点	大栗玲造氏

4. 寄託資料

平成20年度末現在で寄託されている資料は62件ある。平成20年度に新たに寄託された資料は次のとおり。

4 資料の収集・保存と活用

●美術工芸

藤桃斎筆 鐘馗図ほか 2点 馬場良明氏

須木一胤筆 旧徳島城図ほか 2点

徳島市立徳島城博物館

5. 資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。
学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中
(p.29~30)に記載した。

●動物

ハゼ科魚類標本 7点 宮内庁生物学御研究所

●地学

アンモナイトほか化石標本 22点
島根県立三瓶自然館

メソダーマケリス (カメ類・オサガメ科)
1点 さぬき市雨滝自然科学館

和泉層群の化石 6点 さぬき市雨滝自然科学館

●考古

若杉山遺跡出土獣骨ほか 6点

財団法人徳島県埋蔵文化財センター

若杉山遺跡出土石臼ほか 4点 徳島市教育委員会
忌部山古墳群出土資料ほか 36点

島根県立八雲立つ風土記の丘

河辺寺出土軒平瓦、軒丸瓦 3点

財団法人徳島県埋蔵文化財センター

入田瓦窯跡出土瓦類、土器類、円面硯
4点 徳島市教育委員会

●歴史

臨時召集令状レプリカ 1点
愛媛県歴史文化博物館

徳島空襲関係資料 5点 徳島県立文書館

古語拾遺レプリカほか 5点
島根県立八雲立つ風土記の丘

パーソナルコンピュータ 1点 徳島県立図書館

徳島水平社関係資料等 12点 北島町教育委員会
デルビル磁石式壁掛電話機ほか

5点 徳島北警察署

徳島水平社関係資料等 16点
徳島県立人権教育啓発推進センター

●民俗

人形芝居頭 角目頭=金藤次 1点
徳島市立徳島城博物館

電卓 1点 徳島県立図書館

文楽着付け人形・お弓、文楽人形芝居頭・文七
2点 高松市歴史資料館

●美術工芸

守住貫魚筆 全国名勝絵巻ほか 7点
徳島市立徳島城博物館

渡辺広輝筆 源氏薄雲図ほか 15点

徳島市立徳島城博物館

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供を含む。

●動物

那賀川水系産ドジョウ画像 1点 四国放送

●植物

オオミヤシの写真 1点 IVS テレビ制作株式会社
ヤッコソウの写真 1点 有限会社ハユマ

●地学

現生オウムガイの殻内部の写真 (博物館ニュース
No.52) 1点 島根県立三瓶自然館

「阿讃山地の泉層群から産出する主なノストセラス
科アンモナイト」図 (博物館ニュース No.66)

1点 東かがわ市歴史民俗資料館
博物館ニュース No.66 p.2-3

さぬき市雨滝自然科学館
徳島の自然と歴史ガイド No.3「化石」 p.15-25

さぬき市雨滝自然科学館
パレオパラドキシア骨格標本の写真

1点 津山郷土博物館
チタノサウルス全身骨格レプリカ他の撮影 7点

兵庫県立人と自然の博物館 三枝春生
菱マンガン鉱の写真 (展示解説書「ミネラルズ」)

1点 (有)クリエイティブバック
チラノサウルスの全身骨格 (レプリカ) の撮影

1点 瀬戸内海放送報道制作ユニット
メガテリウムの全身骨格 (レプリカ) の写真

1点 株式会社ニュートンプレス

●考古

南庄遺跡の集落と人々のくらしの様子(復元)カラー
写真 1点 徳島市教育委員会

若杉山遺跡出土石臼/石杵ほかカラーポジ及び白黒
写真 7点 徳島市教育委員会

神山町鍋岩出土石棒ほかカラーポジ
4点 徳島市教育委員会

若杉山遺跡出土の石臼、石杵、辰砂原石のカラー写
真 1点 株式会社 白鳳堂

●歴史

三好長慶錦絵写真 1枚 徳島県教育委員会

池田諏訪公園の神代踊ほか写真
15枚 株式会社郷土出版社
徳島市 百貨店屋上の回転塔ほか写真
3枚 徳島県立文書館
細川成之画像(模本)写真 1枚 有限会社三猿舎
七十一番職人歌合写真 3枚 学校法人河合塾
七十一番職人歌合写真 1枚 学校法人河合塾
徳島藩御城下絵図写真 1枚 徳島出版株式会社
「解放令」布達文書写真 1枚
徳島県中学校人権教育研究会

●民俗

人形座町廻り図ポジフィルム
1枚 徳島市教育委員会
阿波古式打毬 白玉 赤玉写真
2枚 株式会社アルバ
阿波古式打毬競技道具一式写真
21枚 社団法人 霞会館
正月しめなわの写真 2枚
愛媛新聞サービスセンター生活情報出版部
花嫁菓子用菓子型 2枚 四電ビジネス株式会社
阿波人形浄瑠璃舞台図ポジフィルム
1枚 国立劇場伝統芸能情報館

●美術工芸

須木一胤筆 旧徳島城図写真
1点 徳島市立徳島城博物館
守住貫魚肖像画ほか写真 6点
(財)とくしま“あい”ランド推進協議会
小野小町姫一世記デジタルデータ
1枚 矢島道子
守住貫魚肖像画写真 1枚 (社)徳島県薬剤師会
守住貫魚筆 越前国白山真景図写真
1枚 白山比咩神社
「天曆古兜 黒田小塚邑兜庵蔵」写真
1点 須藤茂樹氏
閑々子書写真 1枚 (社)徳島県薬剤師会
珉平焼 青磁水指箱ほか写真 5点
兵庫陶芸美術館

7. 資料の提供

●動物

香川県産カワバタモロコ (DNA 解析用)
6件 岡崎登志夫氏
吉野川水系産ドジョウ (DNA 解析用)
2件 清水孝昭氏
那賀川水系産ドジョウ画像 1点 四国放送

徳島県産ほかオヤニラミ (DNA 解析用)
11点 清水孝昭氏

●植物

徳島県産等植物標本 144点
オレゴン州立大学 (OSC)
徳島県産等植物標本 249点
東北大学 (TUS)
徳島県産等植物標本 108点
北海道大学 (SAPS)
徳島県産等植物標本 82点
福島大学 (FUKU)
徳島県産等植物標本 100点
神奈川県立生命の星地球博物館 (KPM)

●考古

古屋岩陰遺跡出土シジミ、キセルガイ、ハマグリ(14
C年代測定用) 2点 遠部 慎氏

8. 資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本については、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学と定期的な標本交換を行っている(本章の「3. 寄贈資料」および「7. 資料の提供」を参照)。

9. 館蔵資料数

平成21年3月末日現在の分野別収蔵資料数は次表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館の購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、平成17年3月末日での徳島県美術品等取得基金の廃止に伴う資料購入手順の見直しにより、1件100万円以上の資料について審査することになった。

委員は常任委員(5名以内・任期2年)と特別委員(3名以内)から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。

●分野別収蔵資料数（平成21年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	22,605	22,531	55	13	6
(無脊椎)	37,086	37,026	0	58	2
(昆虫)	189,202	188,798	0	7	397
植物	190,036	189,686	61	8	281
地学	8,430	8,333	95	2	0
考古	3,744	3,599	73	13	59
歴史	9,833	9,045	26	4	758
民俗	11,288	11,278	5	5	0
美術工芸	9,757	9,748	0	4	5
合計	481,981	480,044	315	114	1,508

20年度は、委員会は開催できなかった。

●博物館資料収集委員会委員

(◎委員長、○副委員長)

氏名	役職(専門分野)
◎石田 啓祐	徳島大学総合科学部教授(地学)
米澤 義彦	鳴門教育大学学校教育学部教授(生物)
○福原 健生	元徳島市立徳島城博物館長(美術工芸)
坂本 憲一	元(財)徳島県文化振興財団事業部主幹(民俗)
桑原 恵	徳島大学総合科学部教授(歴史)

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数(データベース登録数による)

12,429冊(うち平成20年度分 110冊)

●購入雑誌

自然史系(25タイトル): 生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、Cladistics, Evolution, Science, Trends in Ecology and Evolution, American Journal of Botany, Blumea, Botany, International Journal of Plant Sciences, Kew Bulletin, Systematic Botany, Episodes, Geology, Journal of Paleontology, Paleobiology, Lethaia

人文系(34タイトル): 美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャー

ナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、信濃、ミュゼ、環境社会学研究、民具研究、人文地理

●当館刊行物の定期発送先(平成21年3月末現在)

博物館ニュース	1,367カ所
博物館年報	455カ所
研究報告(国内)	555カ所
(国外)	144カ所
展示解説	231カ所
企画展図録(自然)	139カ所
(人文)	244カ所

12. 資料の保存

●資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だて、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の(1)~(3)の3種類の燻蒸を行って来た。

(1) 減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm(約2.3m³)である。

17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

20年度は1回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

(2) 常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m（約60m³）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

20年度は徳島県立鳥居記念博物館から移転した資料の燻蒸処理のため、常圧燻蒸庫での燻蒸を3回行った。

(3) 収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなるとともに、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

20年度は生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫1・2、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行った。燻蒸後、使用したガスは大型の活性炭吸着装置で回収した。また、燻蒸剤の使用をできるだけ少なくするために、考古収蔵庫と地学収蔵庫では、エムペントリン製剤による簡易燻蒸を実施した。

次回の実施は23年度の予定である。

●常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。

20年度にも、部門展示室のケース内等でタバコシバンムシの発生を確認した。発生した資料は、昨年度以前にも発生が確認された植物標本で、これらの資料の燻蒸を行うとともに、当該ケース内に比較的毒性の低い忌避剤等を設置し経過を観察することとした。

Ⅱ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成20年度は、次の2つの課題調査を行った。

(1) 剣山系の昆虫相

剣山系における昆虫相の調査は古くから行われてきているものの、一部のグループに限られたものが多いため、種の分布記録などの基礎データは不十分である。剣山系における昆虫類のインベントリー作成を目的として、本年度は半翅類のモニタリング調査を行った。情報や資料の蓄積が進めば、剣山系における環境保全活動に基礎資料を提示できることが期待される。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）、山田量崇（動物）
館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部教授）

●調査概要および結果

2008年9月17～19日 神山町・那賀町（剣山スーパー林道）

2008年10月4日 那賀町（剣山スーパー林道）

2008年10月24～26日 神山町、那賀町木頭、佐那河内村大川原

2008年11月14日 つるぎ町貞光～葛龍、美馬市見ノ越～西島～木屋平

2008年11月21日 那賀町相生～上那賀

2009年3月27～28日 吉野川市高越山

（館外調査者は、2008年9月および10月、2009年3月

の3回参加、そのほか大原、山田が調査を行った）

各調査地点共に、苔に依存するマルゲンバイ類を対象として標高を変えて調査を行った。移動性に乏しいマルゲンバイ類は、徳島県からこれまでに3種が知られている。本年度の調査により、標高700m以下には主にマルゲンバイ、標高700～1200mにはミヤモトマルゲンバイ、1200m以上にはツルギマルゲンバイがそれぞれ分布することが示唆されたが、各種の分布境界線は判然としなかった。また、ミヤモトマルゲンバイとツルギマルゲンバイの形態的差異が明確でないため、今後は形態形質による分類学的な再検討を行っていききたい。

また、11月14日に見ノ越から西島周辺でミヤマクマザサの壺枯れ現象の調査を行ったが、かなり広範囲にササコナフキツノアブラムシが発生し、葉が褐色になったためにクマザサが枯れたという報道がなされた。我々が調査した段階では完全に枯死した（株）はなく、アブラムシの吸汁により褐色になって枯れた葉と、アブラムシの排泄物によるスス病が出ている状態であった。ただ、ほとんどの稈は枯れていないと判断され、夏の渇水による影響でアブラムシが大発生したものではないかと考えられた。ただし、春先からの追跡調査は必要と思われる。

(2) 徳島県の念仏芸能に関する動態把握のための調査

本調査は、徳島県で行われている風流系の念仏芸能について、隣県も含む分布調査を行うとともに、その映像記録作成と基礎資料の調査を行うことを目的とする。具体的には、県西部に分布する「踊り念仏」、「鉦踊り」等を調査対象とした。

これらの念仏芸能については、徳島県教育委員会、檜瑛司氏らによりその概要について報告されているものの、その動態的把握、県域を越えた分布の把握等については十分ではない。したがって、対象とする念仏芸能について映像記録の作成を行うとともに、変化や分布に関する調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：磯本宏紀（民俗）

●調査の概要及び成果

8月16日 三好市山城町寺野

8月24日 三好市山城町茂地

8月29～31日 四国中央市上山

2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動に関する標識再捕法による調査を20年度も行った。春期の移動記録は得られなかった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県産淡水魚類相調査

園瀬川や那賀川水系ほか、県内数カ所で採集調査を行った。

②カワバタモロコの保全生物学的研究

徳島県産カワバタモロコの生息環境が悪化しているため、避難地選定のための溜池の環境調査を実施した。

③徳島県産オヤニラミ保全対策の検討

徳島県産オヤニラミの遺伝的分化の状態を把握するため、徳島県産および周辺地域産サンプルのDNA解析を行った。

④徳島市域における魚類生息調査

徳島市からの協力依頼で、魚類標本データを提供し、解析の助言を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①ハナカメムシ科の系統分類学的研究

東南アジアを中心に生物多様性保全ならびに生物的防除の観点から本科の系統分類学的研究を行った。

②徳島県および四国の半翅目昆虫相の解明

県内各地ならびに四国各地にて調査を行い標本の蓄積に努めた。

③剣山系の昆虫相調査

半翅類と小蛾類を対象にインベントリー作成をめざしたデータの収集を行った。

④県産無脊椎動物相の調査

主に海産および汽水産甲殻類の標本収集を行った。

小川 誠（植物）

①県内産絶滅危惧種の保全に関する調査

絶滅危惧種アサザについて県内外の生きた個体および標本のDNAを調べた（山城孝氏と共同）。

②タンポポの分布調査

タンポポ調査2010・西日本に関連し、タンポポの分布調査を行った。鳥根県、鳥取県、岡山県、愛媛

県のクシバ・ヤマザトタンポポを調査し、徳島県内に本当にヤマザトタンポポがあるのか調べたが、徳島県内では確認できなかった。また、タンポポ調査2010・徳島県実行委員会と連携し、県内のタンポポ調査を行った。

③市民参加型調査における分布情報の記録方法の研究
タンポポ調査などの市民参加型調査においては分布情報を記録し、調査結果を共有するシステムが必要である。インターネットを使い、経緯度情報を記録したり、Google マップを使って調査結果を共有する方法を探った。

茨木 靖（植物）

①県産植物相の調査

阿南市を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。

②ススキ属他イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池淵正明氏と共同）。

中尾賢一（地学）

①浅海成鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査
高知県、長崎県、鹿児島県、沖縄県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。

②美馬市旧美馬町地域の地質に関する研究

平成20年度阿波学会の調査の一環として、美馬地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

③鮮新世後期以降の貝類に関する古生物地理学的研究
「大陸沿岸系貝類」とよばれている貝類群について古生物地理学的検討を行った。

④唐ノ浜層群穴内層産出貝化石の研究

高知県の鮮新統穴内層から産出が確認された未報告貝化石について、分類学的検討を行った（三本健二氏と共同）。

辻野泰之（地学）

①上部白亜系のアンモナイト化石に関する研究

北海道蝦夷層群から産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究。

②白亜系蝦夷層群の地質に関する研究

北海道古丹別地域に分布する蝦夷層群函淵層についての研究を行った。

③上部白亜系オウムガイ化石に関する研究

高知県四万十市佐田石灰岩より産出したオウムガイ化石の分類学的研究。

④上部ジュラ系坂州層群栗坂層に関する研究

那賀町に分布する上部ジュラ系坂州層群栗坂層か

ら産出する動物化石や地質に関する研究を行った（石田啓祐氏・香西武氏・佐藤正氏らと共同）。

⑤美馬市美馬地域の地質に関する研究

平成20年度阿波学会の調査の一環として、美馬地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

高島芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

阿南市の津乃峰山中腹の岩屋周辺の採集資料の確認及びこと若杉山遺跡の中間地帯での、石杵の採集を通じて、朱の採掘遺跡の広がりを追求した。

②東四国における姫島産黒曜石の分布の検討

那賀川流域の鮎川西ノ宮遺跡で採集した姫島産黒曜石の分布の広がりを追求して、高知県・愛媛県の東部、香川県、徳島県で資料調査を行い、その意義付けを行った。

③中世城館総合調査

徳島県教育委員会の中世城館総合調査の調査員を引き受ける。担当地域は阿南市。本年度は山城の確認調査ばかりでなく、平地城館の検討も行った（須藤茂樹、福永素久、向井公紀と共同）。

魚島純一（保存科学・考古）

①鳥居記念博物館収蔵庫の改修とその環境調査

鳥居記念博物館の文化の森への移転の一環として、徳島県立博物館の保存処理室1を改修して、新しく収蔵庫を設けることとなった。収蔵庫の改修設計に際しては、資料保存の視点からの要望を行った。また、改修工事完了後は、空調設備の試運転を行い、おもに温湿度変化の状況を把握し、環境調査の結果をもとに、より安定した収蔵環境をつくりだす試みを行った。

②発光ダイオードを使った照明器具の展示への実用化

発光ダイオード（LED）は通常の電球にくらべて極めて消費電力が低いが、高価であることや、色の再現性（演色性）が十分でないなどの問題もある。県内の業者が試作した発光ダイオードを使った照明器具に対して、より大きな照度やより高い演色性をつくり出せるように要望し、博物館で使用できるスポットライトの製作に取り組んでもらった結果、実用に耐える製品の完成に至った。完成した製品は、徳島県のLED応用製品利用促進事業により購入し、平成21年2月から、常設展示室ケース内の一部で使用している。今後は、耐久性等についても検証する予定である。

③外部依頼による調査、保存処理等

・藍住町教育委員会、香川県教育委員会、高松市教

育委員会などの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査、X線透過撮影による構造調査を行った。

・徳島市教育委員会の依頼を受け、墨書石の赤外線TVカメラでの調査を行った。

・徳島市教育委員会の依頼を受け、取り上げ遺構の保存処理の指導を行った。

・阿南市、鳴門市、神山町、東みよし町の各教育委員会などから依頼を受け、博物館施設等の展示・収蔵環境における虫害防除や温湿度等について、現地調査を行い、アドバイス等を行った。

長谷川賢二（歴史）

①中世の修験道・山岳信仰の研究

従来の中世修験道史研究の成果について包括的に検討し、とくに宗派的思考にとらわれている点を中心に課題を抽出して、一定の展望を得た。また、阿波国南部の熊野権現の縁起の成立と背景、高越山の霊場的展開についても並行して検討を進めた。

②自治体史における部落史についての検討

自治体史における部落史の位置づけや叙述・史料公開のあり方について検討した。

③近代の阿波における地誌関係資料の調査

明治時代の郡村誌作成にかかわる資料を調査するとともに、未紹介写本の翻刻を行った（立岡裕士氏・近藤南枝氏らと共同）。

④地誌・中世文書における城館関係記載の調査

徳島県教育委員会による中世城館跡総合調査の一環として、地誌や中世文書における城館関係記載を抽出した。

庄武憲子（民俗）

①徳島県内の地芝居に関する調査

徳島県内で上演されていた地芝居の記録収集・整理と徳島市八多町、美波町木岐における地芝居について聞き取り調査を行った。

②海部地方の盆棚習俗の事例収集と整理

海部地方において、盆におけるまつりに地域的特徴が見られるかを確認することを目的として、現行されている盆棚習俗の事例収集、整理を行った。牟岐町内で3例の情報を新たに得ることができた。

磯本宏紀（民俗）

①潜水漁及びイサリ漁の漁具・漁法および環境利用に関する研究

徳島県南部の漁村を中心に、潜水漁及びイサリ漁で使用される漁具及び漁法の調査を行った。

②伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住に関する民俗学的研究

阿南市伊島からの近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。器械潜水漁を生業とすることに

よって生じた出稼ぎ移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

③からさおの地域差に関する調査

徳島県内のからさおの形態、材質、使用形態などの特質及び仕事唄について調査した。また、これらのデータをもとに地域差についての検討も行った。なおこれらのデータは、県内を含む四国からさお調査の一部をなすものである。

④徳島県の念仏芸能に関する動態把握のための調査 つるぎ町の踊り念仏、三好市の鉦踊りの調査及び撮影を行った。

⑤徳島市八万町における民間信仰および石造物等に関する調査

「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト実行委員会での共同調査。

大橋俊雄（美術工芸）

①阿波における好古の思潮と守住貫魚

18世紀後半から現れる好古考証の思潮は、老中松平定信に近い柴野栗山、屋代弘賢、住吉広行らを通じて阿波に流入した。この問題を、藩絵師守住貫魚を例として調べた。

②飯塚桃葉に関する調査

阿波藩御用蒔絵師飯塚桃葉について、漆芸史上の位置づけについて諸調査をおこなった。

③塗師藤重に関する調査

藤重は、戦国期に奈良に現れた塗師であり、桃山期に利休の塗師として知られ、江戸時代には家が分かれて幕府諸大名に出入りし、蜂須賀家にも出入りした。明治以後には子孫が徳島に移り、画家として南画をひろめた。徳島における活動の状況を調べた。

3. 科学研究費補助金等による研究

●若手研究(B)：東南アジアにおけるハナカメムシ類を含む生物的防除資材の探索と簡易同定法の構築（平成20～22年度）

研究代表者：山田量崇

●基盤研究(B)：北米太平洋岸に分布する海成白亜系の高時間精度年代層序と海生生物群の時空変遷（平成18～平成20年度）

研究代表者：棚部一成

（東京大学大学院理学研究科教授）

当館の研究分担者：辻野泰之

●基盤研究(B)：日本中世における「山の寺」（山岳宗教都市）の基礎的研究（平成20～23年度）

研究代表者：仁木 宏（大阪市立大学大学院文学研究科准教授）

当館の連携研究者：長谷川賢二

4. 他機関との共同研究

●徳島大学環境防災研究センター「沖積平野の河川—水路網における治水、利水および希少生物の保全との両立を目指した水管理手法の開発」。 (財)河川環境管理財団、平成20年度河川整備基金助成（調査・試験・研究部門、一般的助成）

研究代表者：岡部健士（徳島大学環境防災研究センター）

当館の研究分担者：佐藤陽一

分担内容：生息環境モデル・生息可能性評価モデルの構築

●阿南工業高等専門学校「地域社会の協働体（産官学民による新しい公）による環境保全の実践とモデル化」。 (財)日本生命財団、平成20年度個別研究助成。

研究代表者：小松満夫（阿南工業高等専門学校長）

当館の研究分担者：佐藤陽一

分担内容：岡川（桑野川水系）におけるオヤニラミ生息復活へ向けての基礎調査

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第18号の発行

2009年3月31日発行、B5判162ページ、1100部

（*は館外研究者）

論文

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類（4）. p.1-20.

遠部 慎*：徳島県那賀郡上那賀町古屋岩陰遺跡出土貝類の炭素14年代測定. p.21-32.

調査報告

林 正美*・山田量崇・大原賢二：徳島県初記録のウミミズカメムシ. p.33-38.

豊崎 勲・大原賢二・山田量崇：徳島県におけるベントンの調査記録. p.39-44.

豊崎 勲・大原賢二・山田量崇：イチジクヒトリモドキの野外における越冬記録と発生回数. p.45-50.

山田量崇・行成政昭：徳島県におけるヘクソカズラグンバイとプラタナスグンバイの発生. p.51-54.

大原賢二・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2008年）. p.55-66.

田邊 悟*：徳島県海部郡浅川町浅川の磯漁伝統. p.67-77.

松村宏道*・名倉俊之*・近藤南枝*・長谷川賢二：近藤有地蔵書写 尾開・興崎・市場村誌／文化尾開棟付帳. p.79-162.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈論文・調査報告〉(☆：査読付学術雑誌)

市川俊英*・大原賢二 (2009. 2) ケブカハチモドキハナアブとヒサマツハチモドキハナアブ (双翅目, ハナアブ科)の成虫の行動. 香川大学農学部学術報告, (114) : 1-10.

大原賢二・山田量崇 (2009. 3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2008年). 徳島県立博物館研究報告, (19) : 55-66.

豊崎勲・大原賢二・山田量崇 (2009. 3) 徳島県におけるベニトンボの調査記録. 徳島県立博物館研究報告, (19) : 39-44.

豊崎勲・大原賢二・山田量崇 (2009. 3) イチジクヒトリモドキの野外における越冬記録および発生回数. 徳島県立博物館研究報告, (19) : 45-50.

☆Yamada, K. (2008. 7) *Blaptostethus aurivillus*, a new flower bug (Heteroptera, Anthocoridae) from West Malaysia. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 14 (1) : 7-11.

☆Yamada, K., K. Bindu* & M. Nasser* (2008.10) Taxonomic and biological notes on *Cardiastethus affinis* and *C. pseudococci pseudococci* (Hemiptera : Heteroptera : Anthocoridae) in India. *Zootaxa*, 1910 : 59-68.

☆Yamada, K. (2008.12) Taxonomy of the genus *Amphiareus* (Heteroptera : Anthocoridae) in South-east Asia. *European Journal of Entomology*, 108 (5) : 909-916.

林正美*・山田量崇・大原賢二 (2009. 3) 徳島県初記録のウミミズカメムシ. 徳島県立博物館研究報告, (19) : 33-38.

山田量崇・小汐千春*・大原賢二 (2008. 7) 徳島県における南方系の蛾3種について. 日本鱗翅学会四国支部 News Letter, (10) : 5-7.

山田量崇・大原賢二 (2008. 8) 徳島県で絶滅が危惧される昆虫類. 昆虫と自然, 43 (9) : 44-47.

山田量崇・行成正昭* (2009. 3) 徳島県におけるプラタナスグンバイとヘクソカズラグンバイの発生. 徳島県立博物館研究報告, (19) : 51-54.

環境省中国四国地方環境事務所・スペースビジョン研究所編 (佐藤陽一 [協力]) (2009. 3) 平成20年度

四国圏における生態系ネットワーク形成のための調査報告書. 環境省中国四国地方環境事務所, 岡山, 210 pp. (irregular pagination).

〈普及的文章〉

山田量崇・大原賢二 (編集協力) (2008. 4) だんごむし. 徳島新聞 4月4日夕刊.

山田量崇 (2008. 4) モンシロチョウ. 徳島新聞 4月25日夕刊.

山田量崇 (2008. 5) ゴキブリ. 徳島新聞 5月9日夕刊.

山田量崇 (2008. 5) ゲンジボタル. 徳島新聞 5月23日夕刊.

山田量崇 (2008. 6) カタツムリ. 徳島新聞 6月6日夕刊.

佐藤陽一 (2008. 6) 外来動物. 徳島新聞 6月20日夕刊.

佐藤陽一 (2008. 6) ムササビ. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (71) : 1.

山田量崇 (2008. 6) 光るミミズがいるって本当?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (71) : 7.

山田量崇 (2008. 7) トンボ. 徳島新聞 7月4日夕刊.

山田量崇 (2008. 7) スズメバチ. 徳島新聞 7月11日夕刊.

山田量崇 (2008. 8) セミ. 徳島新聞 8月1日夕刊.

佐藤陽一 (2008. 8) さかな博士の吉野川魚図鑑 連載第20回: ドジョウ. 四国三郎吉野川, 2008年夏号, 27 : 10.

山田量崇 (2008. 9) カニ. 徳島新聞 9月5日夕刊.

山田量崇 (2008. 9) 秋の鳴く虫 (アオマツムシ). 徳島新聞 9月12日夕刊.

佐藤陽一 (2008. 9) シカ. 徳島新聞 9月26日夕刊.

佐藤陽一 (2008. 9) 絶滅のおそれのある小魚—カワバタモロコ—. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (72) : 2-3.

大原賢二 (2008.11) アサギマダラ. 徳島新聞 11月7日夕刊.

大原賢二 (2008.12) テグスになった蛾. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (73) : 2-3.

大原賢二・山田量崇 (2009. 1) 虫たちの越冬. 徳島新聞 1月23日夕刊.

佐藤陽一 (2009. 2) ウグイス. 徳島新聞 2月27日夕刊.

山田量崇 (2009. 3) ナナホシテントウ. 徳島新聞 3月6日夕刊.

山田量崇 (2009. 3) 徳島市内でプラタナスグンバイを発見. 徳島県立博物館ニュース (速報), (74) : 4

●植物

〈論文・調査報告〉(☆:査読付学術雑誌)

Kokubugata, G.,* Y. Saito* & M. Ogawa (2008.11) Ribosomal DNA distribution patterns on somatic chromosomes of diploid species in three section in genus *Aster* (Asteraceae). Bull. Nat. Sci. Mus. Ser. B, 34 (4): 153-159.

☆Ibaragi Y. and Siro Kobayashi* (2008. 4) *Veldkampia* (Gramineae), a New Genus from Myanmar. Journal of Japanese Botany 83 (2): 106-112.

Y. Ibaragi (2008. 3) Gramineae. In: H. Ohba, Y. Iokawa and L. R. Sharma (eds.), Flora of Mustang, Nepal: 396-29. Kodansha Scientific Ltd., Tokyo.

〈普及的記事〉

小川 誠 (2009. 4) 四季の植物 徳島県のタンポポ。徳島の自然, (77): 7.

茨木 靖 (2008. 5) 漂着種子。徳島新聞 5月2日夕刊。

茨木 靖 (2008. 9) ススキ。徳島新聞 9月19日夕刊。

茨木 靖 (2008. 9) 浜辺の植物所変われば。徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (72): 4.

茨木 靖 (2008.10) 紅葉。徳島新聞10月31日夕刊。

茨木 靖 (2008.11) 食べられる木の実。徳島新聞11月14日夕刊。

小川 誠 (2009. 1) 春の七草。徳島新聞 1月30日夕刊。

茨木 靖 (2009. 2) 梅。徳島新聞 2月13日夕刊。

小川 誠 (2009. 3) タンポポ。徳島新聞 3月13日夕刊。

庄武憲子・茨木 靖 (2009. 3) 桜。徳島新聞 3月27日夕刊。

●地学

〈論文・調査報告〉(☆:査読付学術雑誌)

石田啓祐*・西山賢一*・北村真一*・元山茂樹*・辻野泰之・中尾賢一・小澤大成* (2008. 7) 徳島県穴吹川上流域の地質と地形。阿波学会紀要, (54): 1-12.

石田啓祐*・西山賢一*・北村真一*・元山茂樹*・辻野泰之・中尾賢一・小澤大成* (2008.12) 徳島県穴吹川上流。木屋平の地質と地形。徳島大学総合科学部紀要自然科学研究, 22, 29-44.

三本健二*・中尾賢一 (2009. 3). 高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類化石 (4). 徳島県立博物館研究報告, (19), 1-20.

中尾賢一・石田啓祐*・西山賢一*・森江孝志* (2009. 3) 吉野川谷, 美馬町中上の土柱層から見出された高度変成岩礫。徳島大学総合科学部紀要自

然科学研究, 23, 7-11.

石田啓祐*・辻野泰之・香西 武*・佐藤 正*・Hirsch Francis* (2008.12) 四国東部, 南部黒瀬川帯 (坂州帯) の栗坂層轟セクションにおけるジュラ紀後期放散虫層序とアンモナイト年代。徳島大学総合科学部自然科学研究, 22: 45-56.

☆辻野泰之 (2009. 3) 北海道古丹別地域に分布する上部白亜系蝦夷層群函淵層。地質学雑誌, 115(3): 122-129.

Haruyoshi Maeda*, Yasunari Shigeta*, Yasuyuki Tsujino and Taro Kumagae* (2009. 3) Stratigraphy. In Yasunari. Shigeta, Yuri D. Zakharov, Haruyoshi Maeda and Alexander M. Popov (eds), The Lower Triassic system in the Abrek Bay area, south Primorye, Russia. National Museum of Nature and Science Monographs, (38): 4-24.

〈普及的記事〉

中尾賢一 (2008. 4) ナウマン象。徳島新聞 4月10日夕刊。

辻野泰之 (2008. 5) アンモナイト。徳島新聞 5月16日夕刊。

辻野泰之 (2008. 8) 恐竜。徳島新聞 8月22日夕刊。

辻野泰之 (2008.11) 青石。徳島新聞11月21日夕刊。

中尾賢一 (2008.12) “鉄丸石”。徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (73): 5.

辻野泰之 (2008. 4) アンモナイトハンター。研究職評ニュース, (99): 2

辻野泰之 (2008. 7) 進化や環境を示す化石ーアンモナイト。河野重範・矢田猛士 (編) 島根県立三瓶自然館企画展解説書「化石でたどる生命の歴史」, 22-25.

辻野泰之 (2008. 9) 那賀町 (旧木沢村) 坂州の三畳紀後期の地層: 寒谷層。徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (72): 6.

御前明洋*・藤川将之*・辻野泰之・西村智弘* (2008.10) 学術集会参加報告「第7回国際頭足類シンポジウム (札幌)」参加報告。化石, (84): 111-112.

中尾賢一・辻野泰之 (2009. 2) 徳島県立博物館で実践した「地質の日」関連事業。地質ニュース, (654): 52-55.

辻野泰之 (2009. 3) 世界最大のシーラカンスマウンニア・ラボカティ。徳島県立博物館ニュース (表紙), (74): 1.

●考古

〈論文・調査報告〉

魚島純一 (2008. 3) 勝瑞館跡出土の金製品の蛍光 X

線分析について、「勝瑞館跡第12次発掘調査概要報告書」, 藍住町教育委員会: 25-26.

魚島純一 (2009. 3) 高松市太田下・須川遺跡出土土器に付着した赤色顔料の蛍光X線分析. 国道11号高松東道路関連整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「太田下・須川遺跡」, 高松市教育委員会: 48-49.

〈普及的記事〉

魚島純一 (2008. 6) 『法隆寺壁画保存方法調査報告』.

徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (71): 6.

魚島純一 (2008.12) 「マイキリ」は大昔の火おこし道具ではないと聞いたのですがほんとうですか?. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (73): 7.

●歴史

〈論文・調査報告〉

長谷川賢二 (2009. 3) 博物館と歴史研究の関係史をめぐる覚書—一九四五年以前における四国の博物館史から—, 史窓, (39): 1-27.

長谷川賢二 (2009. 3) 四国遍路の周縁における霊場と信仰—阿波国南部の事例から—, 「四国遍路と世界の巡礼」研究会編「第1回四国地域史研究大会—四国遍路研究前進のために—公開シンポジウム・研究集会プロシーディングズ」, 愛媛大学: 57-66.

松村宏道*・名倉佳之*・近藤南枝*・長谷川賢二 (2009. 3) 資料紹介: 近藤有地蔵書写 尾開・興崎・市場村誌/文化尾開村棟付帳. 徳島県立博物館研究報告, (19): 79-162.

〈普及的記事〉

長谷川賢二 (2008. 4) 四国遍路. 徳島新聞 4月18日夕刊.

長谷川賢二 (2008. 5) 郷土の発見—小杉榎邨と郷土史研究の曙—上・下. 徳島新聞 5月9日・5月10日朝刊.

長谷川賢二 (2008. 6) 名東・名西. 徳島新聞 6月13日夕刊.

長谷川賢二 (2008. 12) 江戸時代に徳島藩はなかったという話. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (73): 4.

長谷川賢二 (2008.12) 徳島県立博物館の中期活動目標と自己点検・評価. 広島県歴史民俗資料館等連絡協議会会報 れきみんきょう, (45): 5-7.

長谷川賢二 (2008. 12) 戦う博物館. 史友会会報, (23): 9-10.

長谷川賢二 (2008. 12) 書評と紹介: 衣川仁著『中世寺院勢力論』, 宗教研究, (358): 99-103.

●民俗

〈論文・調査報告〉

庄武憲子 (2009. 3) 牟岐町橘字喜来の盆棚. 徳島地域文化研究, (7): 220-224.

磯本宏紀 (2008. 6) 北九州に移住した伊島のモグリサン, 四国民俗, (40): 47-52.

磯本宏紀 (2008. 7) 美馬市木屋平森遠地区と『村落構造の研究』をめぐって, 阿波学会紀要, (54): 201-204.

〈普及的記事〉

磯本宏紀 (2008. 5) 神社. 徳島新聞 5月30日夕刊.

庄武憲子 (2008. 6) 藍染. 徳島新聞 6月27日夕刊.

庄武憲子 (2008. 6) 本の紹介 山本候充『日本銘菓事典』 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (71): 4

庄武憲子 (2008. 8) 妖怪. 徳島新聞 8月15日夕刊.

磯本宏紀 (2008. 9) トコロテンはどのようにしてつくるのですか? テングサが材料だそうですが, 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (72): 7.

磯本宏紀 (2008.10) 秋祭り. 徳島新聞10月3日夕刊.

磯本宏紀 (2008.11) 干し物. 徳島新聞11月28日夕刊.

庄武憲子 (2008.11) 盆棚でのまつり (海部地方の場合) 徳島新聞11月21日朝刊.

磯本宏紀 (2008.12) 「からさお—阿波の脱穀具」展, 徳島新聞12月17日朝刊.

庄武憲子・眉山天神社 (2009. 2) 針供養. 徳島新聞 2月6日夕刊.

庄武憲子 (2009. 2) ひな祭り. 徳島新聞 2月20日夕刊.

庄武憲子 (2009. 2) 「粟飯原家所蔵人形頭コレクション」展 徳島新聞 2月17日朝刊.

庄武憲子・茨木 靖 (2009. 3) 桜. 徳島新聞 3月27日夕刊.

庄武憲子 (2009. 3) 雛掛軸 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (74): 6

庄武憲子 (2009. 3) 新刊紹介 阿波農村舞台の会編『阿波人形浄瑠璃と農村舞台』, 徳島地域文化研究, (7): 254-255.

磯本宏紀 (2009. 3) 新刊紹介 神野勝栄著『つまえとかんせ—戦後少年漁師の生きざま』, 『徳島地域文化研究』, (7): 256-258.

磯本宏紀 (2009. 3) 書評 香月洋一郎著『海士のむらの夏—素潜り漁の民俗誌』, 神奈川大学評論, (62): 172.

●美術工芸

〈論文・調査報告〉

大橋俊雄 (2008.11) 〈史料紹介〉塗師藤重の過去帖—系譜の復元—。漆工史 (31): 28-39

〈普及的記事〉

大橋俊雄 (2008.6) 城の記憶—須木一胤と「旧徳島城図」—。徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (71) 2-3

大橋俊雄 (2009.3) 蒔絵師桃枝について教えてください。徳島県立博物館ニュース (Q&A), (74) 7

(3) 学会・研究会等での発表 (*印: 館外研究者)

●動物

佐藤陽一, 田代優秋* (2008.6) 水路におけるカワバタモロコの生息環境。平成20年度ゴリ研究会 (徳島)。

田代優秋*, 佐藤陽一 (2008.9) 農業水路におけるカワバタモロコ保全のためのゾーニング手法。2008年度日本魚類学会年会 (松山)。

佐藤陽一 (2008.9) 水路におけるカワバタモロコの生息環境。2008年度日本魚類学シンポジウム「カワバタモロコとは?—その実態と保全—」(松山)。

山田量崇 (2008.9) ヤサハナカメムシ属 (半翅目: ハナカメムシ科) の分類学的再検討と生態的特性。日本昆虫学会第68回大会, 香川大学 (高松)。

●植物

小川 誠 (2008.5) 徳島県のタンポポの分布について。四国植物研究会 (愛媛)。

●地学

中尾賢一 (2008.6) “大陸沿岸系” 貝類の再検討。第16回四国貝類談話会 (高知)。

中尾賢一 (2009.1) “大陸沿岸系貝類” の再検討。日本古生物学会第158回例会 (沖縄)。

石田啓祐*・辻野泰之・香西 武*・佐藤 正*・Hirsch Francis* (2008.9) 栗坂層轟セクションにおけるジュラ紀後期放散虫層序とアンモナイト年代。日本地質学会第115年学術大会 (秋田)。

Keisuke Ishida*, Yasuyuki Tsujino, Takeshi Kozai*, Tadashi Sato* and Francis Hirsch* (2008.11) Late Jurassic radiolarian and ammonite faunal succession in the Kurisaka Formation, southern Kurosegawa Terrane, East Shikoku, SW Japan. International Symposia “Geoscience Resources and Environments of Asian Terranes” (Bangkok, Thailand).

●考古

魚島純一・ (2008.6) 博物館の活動を通じた「文化財保存」普及の試み。文化財保存修復学会第30回記

念大会 (太宰府市)。

●歴史

長谷川賢二 (2008.8) 中世における修験道組織と山伏。2008年度日本宗教史懇話会サマーセミナー (長野)。

長谷川賢二 (2008.11) 四国遍路の周縁における霊場と信仰。第1回四国地域史研究大会 (松山)。

長谷川賢二 (2008.12) 四国の「山の寺」。「山の寺」科研2008年度第3回研究会 (福島)。

長谷川賢二 (2008.12) 阿波国那西郡那伊瀬権現之垂迹并夢想託宣記とその周辺。第53回四国中世史研究会 (三豊)。

●民俗

庄武憲子 (2008.9) 阿波の地芝居。四国民俗学会 (愛媛)。

庄武憲子 (2008.11) 盆棚でのまつり—海部地方の場合。徳島地方史研究会・徳島地理学会・徳島地域文化研究会・考古フォーラム蔵本 第三回合同研究会例会「暮らしの中の祈り」(徳島)

Ⅲ 展示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていないことから、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、厳しい財政状況のもとで、開館20周年が近づいているものの、事業化のめどは立っていない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生

物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピーディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開をはかるため、自然史関係の展示も行うことにした。

●和泉層群の化石

4月1日（火）～7月6日（日）

白亜紀後期の地層である和泉層群から産出する化石を、化石愛好家から寄贈をいただいた資料を中心に、四国、淡路島、大阪南部と地域別に紹介した。

●浜辺の植物

7月8日（火）～9月28日（日）

海岸の浜辺や岩場などに生える植物を中心に標本を展示し、その多様性と特徴を紹介した。

●からさお—阿波の脱穀具—

9月30日（火）～1月18日（日）

徳島県内で使用されてきたからさおを中心にして、文献資料、写真資料等をあわせて徳島県のからさおを紹介した。

●新着資料紹介「笠井氏の見た大阪万博」「栗飯原家所蔵人形頭コレクション」

1月20日（火）～5月24日（日）

平成19年度に寄贈を受けた故笠井正一氏が収集した大阪万博に関する資料と、寄託を受けた栗飯原家所蔵の人形頭を新着資料として紹介した。

(3) トピックコーナーの展示替え

未公開資料の活用を中心として、常設展に変化をつ

徳島県立博物館
展示のごあんない 2008年 4月～9月

1階 企画展示室 企画展・特別陳列

4月 企画展 郷土の発見—小杉楯邨と郷土史研究の曙—
4/26(土)～5/25(日)
■ 記念講演会 5/18(日) 13:30～15:00
■ 展示解説 4/29(火)・5/11(日) 13:30～14:30

5月

6月 東大寺写経所請経文(重要文化財)静岡県立美術館蔵

7月 企画展 動物大集合
7/19(土)～9/23(火)
■ 展示解説 毎週日曜 14:00～14:20

8月

9月

2階 常設展示室内 部門展示

和泉層群の化石
4/1(火)～7/6(日)
■ 展示解説 4/27(日) 14:00～14:30

プラチオラス

浜辺の植物
7/8(火)～9/28(日)
■ 展示解説 8/3(日) 13:30～14:00

ハマボウフウ

◆ 展示のテーマ、期間は変わることがあります。
◆ 企画展と部門展示(常設展示)は、それぞれに観覧料が必要です。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-8070 徳島県徳島市八万町向香山
TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp

開館時間 9時30分～17時
休館日 月曜(月曜が祝日・振替休日のときはその翌日)
観覧料 一般200円 高校・大学生100円 小・中学生50円
(割引・減免の規定がありますのでお問い合わせください)

徳島県立博物館
展示のごあんない 2008年 10月～3月

1階 企画展示室 企画展・特別陳列

10月 企画展 香りの世界—誘・癒・遊—
10/18(土)～11/24(月)
■ 展示解説 10/19(日)・11/2(日) 14:00～14:30

11月

12月

1 特別陳列 空から見た徳島
1/27(火)～3/15(日)

2月

3月

2階 常設展示室内 部門展示

からさお—阿波の脱穀用具—
9/30(火)～1/18(日)
■ 展示解説 11/9(日) 14:00～14:30

カラサオによるソバ打ちの作業

新着資料紹介
笠井氏の見た大阪万博
乗販原家所蔵人形頭コレクション
1/20(火)～4/5(日)
■ 展示解説 2/1(日)・3/1(日) 13:30～14:30

日本万国博覧会記念会場図(印刷)ハンカチ
女形頭(鳴州作)

◆ 展示のテーマ、期間は変わることがあります。
◆ 企画展と部門展示(常設展示)は、それぞれに観覧料が必要です。特別陳列は無料です。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-8070 徳島県徳島市八万町向香山
TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp

開館時間 9時30分～17時
休館日 月曜(月曜が祝日・振替休日のときはその翌日)
観覧料 一般200円 高校・大学生100円 小・中学生50円
(割引・減免の規定がありますのでお問い合わせください)

展示替え案内チラシ

けるため、ラプラタ記念ホール出口に展示ケースを設置してトピックコーナーとして小展示を行っていたが、部門展示(人文)の定期的な展示替えの中に自然系も含めることにしたため、次の展示を最後としてとりあえず休止した。

●地質調査と地質図

4月1日(火)～6月1日(日)

「地質の日」関連事業のひとつとして、地質調査に使うハンマーやクリノメーターなどの道具と、地質調査総合センター・旧地質調査所発行発行の20万分の1地質図および同シームレス地質図を展示した。

2. 企画展

平成20年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「郷土の発見—小杉楯邨と郷土史研究の曙—」

近年、近世から近代にかけての阿波における歴史研究をめぐって、新たな資料の掘り起こしや当時の研究内容の検証がさかんになっている。その結果、埋もれた歴史家の存在や業績に光が当てられ、地域的な歴史研究の発展の足取りが明らかにされつつある。

この展示では、こうした地域史学史研究の成果を踏まえながら、阿波が生んだ「最後の国学者」と評され

る小杉楯邨(1834～1910)をはじめとして、阿波の歴史を探り、記録してきた様々な歴史家たちの著作や蔵書的一端を紹介した。徳島における豊かな文化の土壌を知ってもらう機会となることを期待したものである。

●主催 徳島県立博物館・文化庁

●期間 平成20年4月26日(土)～5月25日(日)
(開館日数26日間)

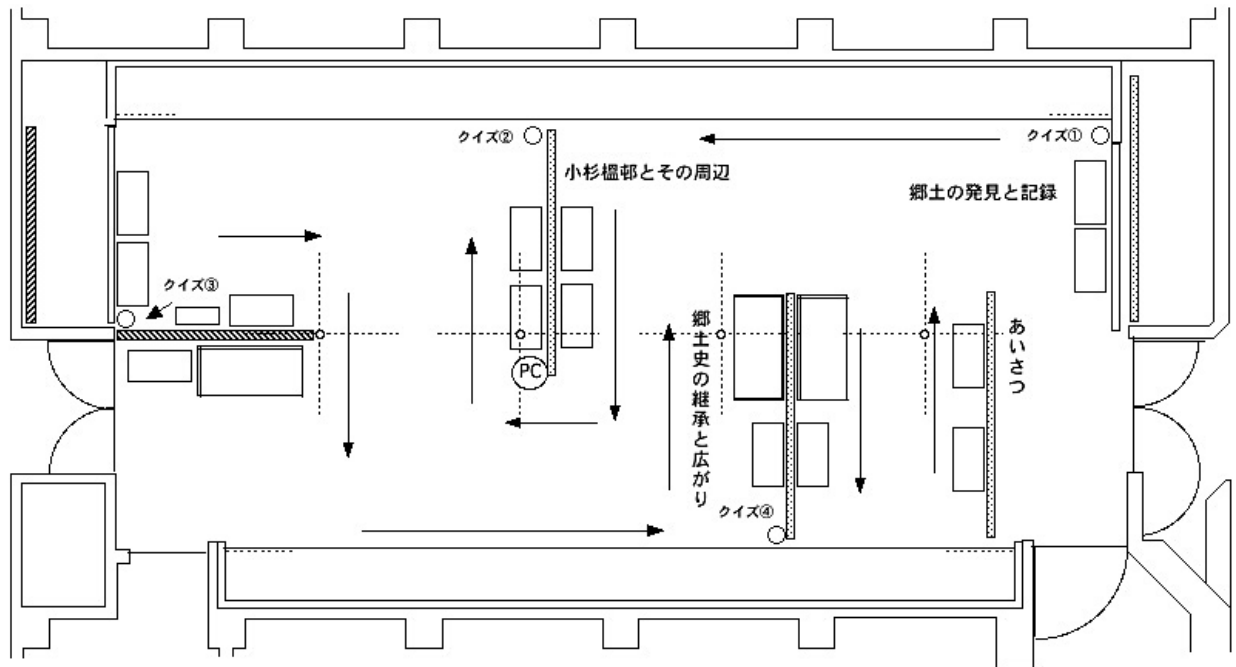
●会場 博物館企画展示室

●展示構成とおもな展示資料

(1)郷土の発見と記録

- (a)近世の歴史探究
- (b)郷土の記録とその広がり
- (c)幕末維新期の地誌編纂

- ・古文書集 徳島県立文書館蔵
- ・阿波国見聞記 四国大学附属図書館蔵
- ・阿波志 個人蔵(徳島市立徳島城博物館保管)
※県指定文化財
- ・阿陽国本論・阿州郡庄国本論 徳島県立図書館蔵
- ・廻在録写 名東郡・勝浦郡・板野郡 徳島県立博物館蔵
- ・守住貫魚関係資料 徳島県立博物館蔵
- ・松浦長年草稿本 国立国会図書館蔵
- ・風土記 阿波郡 個人蔵



「郷土の発見」展 配置図

- ・三好郡見聞録草稿 東みよし町教育委員会蔵
- (2)小杉樞部とその周辺
 - (a)ふるさと阿波
 - (b)調査と集書
 - (c)同郷の研究者
 - ・徴古雑抄 国文学研究資料館蔵

- ・杉園雑集 国立国会図書館蔵
- ・東大寺写経所請経文 静岡県立美術館蔵 ※国指定重要文化財
- ・山背国愛宕郡計帳断簡 静岡県立美術館蔵 ※国指定重要文化財
- ・後嵯峨上皇幸西園寺詠翫花和歌 静岡県立美術館蔵 ※国指定重要文化財
- ・鳥居龍蔵送別の和歌 小杉樞部筆 徳島県立鳥居記念博物館蔵
- ・喜田貞吉関係資料 徳島大学附属図書館蔵

- (3)郷土史の継承と広がり
 - (a)探求と集書の継承
 - (b)郷土の視覚化へ
 - (c)郷土を超えたネットワーク
 - ・大正～戦前期郷土史家関係資料 個人・徳島

郷土の発見

小杉樞部と郷土史研究の曙

2008年4月26日(土)～5月25日(日)

●開館/午前9時30分～午後5時
●休館日/4月28日、5月7日、5月12日、5月19日
●観覧料/一般 200円
高校・大学生 100円 小・中学生 50円

記念講演会 第五回
日 時 ●5月18日(日) 午後1時30分～午後3時
会 場 ●文化の森21世紀館イベントホール
講 師 ●丸山 幸彦氏(奈良大学教授)
テーマ ●「阿波地域史研究の夜明け」

展示解説
日 時 ●4月28日(火/祝日) 5月11日(日) ともに午後1時30分～午後2時30分
会 場 ●博物館企画展示室

文化の森総合公園 徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向山山 TEL 088-668-9636
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/

「郷土の発見」展 チラシ



会場風景

県立図書館・美波町日和佐図書・資料館・徳島県立博物館蔵
 ・徳島県女子師範学校郷土教育関係資料 徳島県立文書館蔵

(4)体験コーナー

(a)クイズ

展示内容に関するクイズを4箇所を設置した(すべてを終了すると、小杉榊郎の肖像写真が完成するというパズル的なものでもある)。また、完答者には、受付で記念品を贈呈した。

(b)デジタル画像

パソコンを設置し、絵巻物や絵図のデジタル画像を閲覧できるようにした。

(c)絵巻物レプリカ

絵巻物のレプリカを観覧者が触れてみるができるようにした。

●展示資料点数 200点

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数 2,905人

●企画展関連行事等

①記念講演会

日時 5月18日(日) 13:30~15:00
 講師 丸山幸彦氏(奈良大学教授)
 演題 阿波地域史研究の夜明け
 会場 文化の森・二十一世紀館イベントホール
 参加者 100名

②展示解説

第1回: 4月29日(火) 13:30~14:30
 参加者19人
 第2回: 5月11日(日) 13:30~14:30
 参加者35人

(2) 第2回企画展「動物大集合—動物標本の世界—」

現在、地球上に生息する動物の種数は100万種とも200万種ともいわれている。地球上のあらゆる場所に進出しており、形や色・模様、生活の仕方などが変化に富んでいる。この企画展では、これまで当館が収集してきた昆虫、貝、エビ・カニ、魚、鳥獣などの標本を中心に動物の多彩な姿を紹介した。

●期間 平成20年7月19日(土)~8月31日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成

(1)動物とは?

動物の分類/動物の種数



「動物大集合」展 チラシ

(2)いろいろな動物

魚類/両生類/爬虫類/鳥類/哺乳類/貝類/甲殻類/昆虫類

(3)標本とは?

研究用の標本/標本の利用と保存

(4)その他

標本にさわってみよう(タッチングコーナー)
 動物の絵を描こう(お絵かきコーナー)
 クイズ(シート4種類)

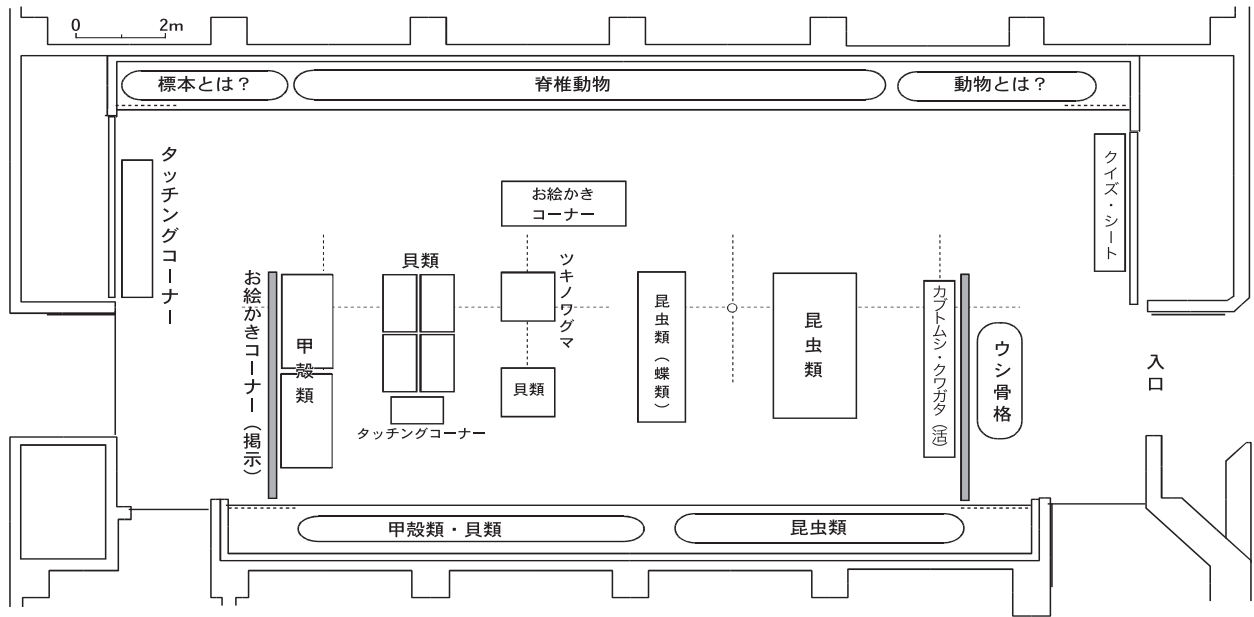
●展示資料点数 3,160点

●観覧料 一般200円/大学生100円/高・小・中学生は夏休み期間中につき無料

●期間中の観覧者数 12,652人



展示室風景



「動物大集合」展 配置図

●企画展関連行事

①展示解説

- 第1回：7月20日(日) 14:00～14:20
参加者37人
- 第2回：7月27日(日) 14:00～14:20
参加者15人
- 第3回：8月3日(日) 14:00～14:20
参加者45人
- 第4回：8月10日(日) 14:00～14:20
参加者10人
- 第5回：8月17日(日) 14:00～14:20
参加者32人
- 第6回：8月24日(日) 14:00～14:20
参加者38人

(休館日：10/20(月)・10/27(月)・11/4(火)・11/10(月)・11/17(月))

●会場 博物館企画展示室

●展示構成

- (1)さまざまな生き物の香り
 - ・植物の香り
 - ・動物の香り

(3) 第3回企画展「香りの世界 —誘・癒・遊—」

私たちの周りにはさまざまな香りがあふれている。香りには癒しの効果があると言われており、人々は古くからその香りを楽しみ親しんできた。

今回の企画展では、さまざまな生き物がつくりだす香りについて理解を深め、また体験することにより、人と香り、生き物と香りの関わりを紹介した。

また、NPO法人とくしま農大アグリとその協力企業である(株)ブラディッシュの協力を得て、スダチの香りの粉を使ったハガキ作りの体験コーナーとして設けたところ、観覧者から好評であった。

●主催 徳島県立博物館

●期間 平成20年10月18日(土)～11月24日(月)
(33日間)

期 日	9:30～17:00	休 日	10/20(月)・10/27(月)・11/4(火)・11/10(月)・11/17(日)
観 料	一般200円 高校生100円 小・中学生50円 未小・中学生および高校生は、土曜日・日曜日・祝日及び長期休業日の観覧料は無料 ※20名以上の団体は？割引 ※65歳以上および障害者は半額 ※学校教育での利用は無料		

「香りの世界」展 チラシ



展示解説

- (2)香りで誘う
 - ・生き物と香りの関わり
- (3)香りの秘密
 - ・精油—香りを取り出す
- (4)香りで遊ぶ・楽しむ
 - ・さまざまなポプリ
 - ・香りのクイズ
 - ・いろいろな香りのお酒
 - ・香りの粉と水
 - ・香りの体験コーナー
- (5)香りで癒す
 - ・森の香り
- (6)身のまわりの香り
 - ・香りの植物を探そう
- (7)外国に紹介された「香りの植物」

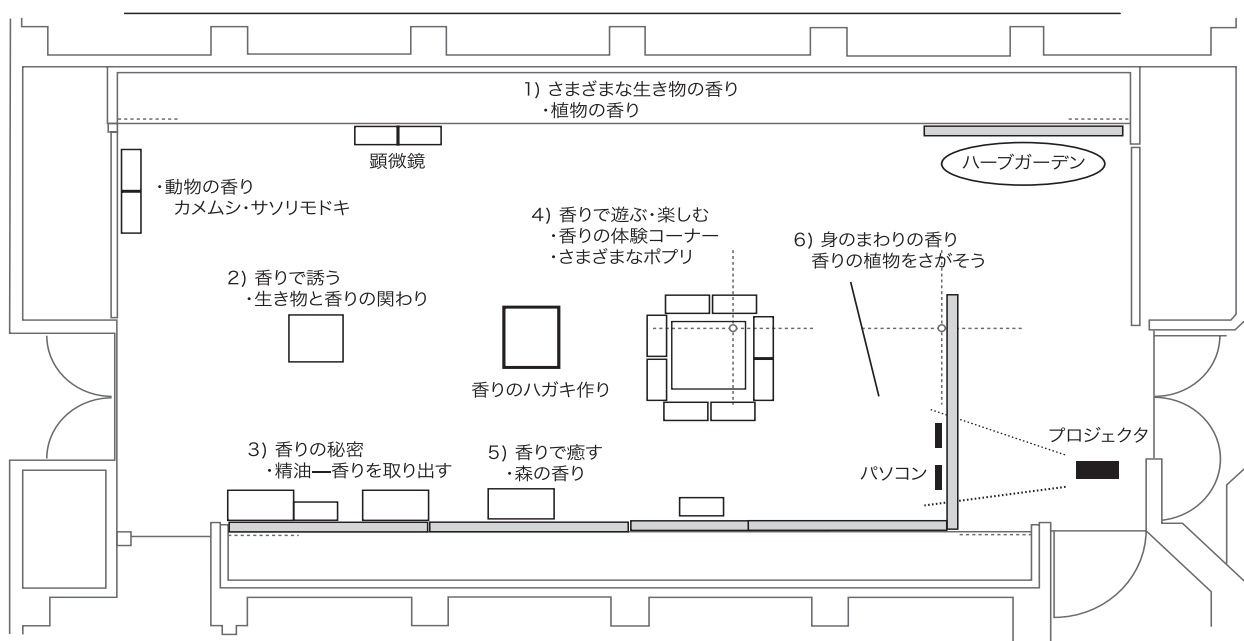
- 展示資料数 展示資料数 合計281種344点（そのうちにおいのかげるもの73種）
- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 5,650人
- 企画展関連行事
 - ①企画展関連行事 展示解説①
 - 日時：10月19日(日) 14:00～14:30
 - 参加者 24名
 - ②企画展関連行事 展示解説②
 - 日時：11月2日(日) 14:00～14:30
 - 参加者 30名

3. 特別陳列

(1) 空から見た徳島

県立博物館では徳島県消防保安課と消防防災航空隊の協力を得て、消防防災ヘリコプターの一般行政利用の一環として、飛行訓練中に徳島県内各地の写真撮影を行ってきた。これまでに、県内の古墳や銅鐸出土地をはじめ、河川の形状や海岸地形、ため池、さらに渡りをするチョウとして有名なアサギマダラの飛来地などのテーマを設定して撮影を行ってきた。

今回の特別陳列は、それらの写真の一部を徳島の現状として地域ごとに紹介した。また、その地域の古い写真がある場合には、その時代と現在との比較なども含めて、空からの徳島の姿を見ていただいた。



「香りの世界」展 配置図

●期間 平成21年1月27日(火)～3月15日(日)
(42日間)

●会場 博物館企画展示室

●展示の構成

- (1)吉野川河口周辺の航空写真
- (2)鳴門付近
- (3)吉野川河口・沖ノ州付近
- (4)園瀬川流域
- (5)小松島市・阿南市付近
- (6)那賀川流域
- (7)剣山系周辺
- (8)蒲生田岬・伊島周辺, 県南海岸
- (9)吉野川流域
- (10)モーターパラグライダーから見た景色

●展示資料点数 242点

●観覧料 無料

●期間中の観覧者数 7,517人



会場風景 1



会場風景 2

(2) 2008年度文化の森人権問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会(生涯学習政策課・人権教育課)との共催で、人権問題啓発展(識字学級生の作品展)を行った。

●主催 文化の森5館・徳島県教育委員会

●期間 平成20年12月2日(火)～7日(日)

●入場者数 599人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内博物館の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、展示パッケージ(テーマに応じた展示資料及びパネル、ラベルのセット)の貸し出しを行っている。県内博物館施設のほか、市町村教育委員会等に貸し出しの案内チラシを配布し、活用の促進を図っている。

20年度の貸し出し実績は、次のとおりである(パッケージ名称、貸し出し先、期間の順に記載)。

・徳島水平社(北島町教育委員会)

平成20年11月26日～平成20年12月11日

・徳島水平社(徳島県立人権教育啓発推進センター)

平成21年2月11日～平成21年3月25日

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、展示パッケージの貸し出しとあわせて、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。20年度は、次のような実績があった。

■移動展「丹波竜フェスティバル2008」への参加

●主催 丹波竜フェスティバル2008実行委員会

●共催 NPO西日本自然史系博物館ネットワーク(兵庫県立人と自然の博物館・大阪市立自然史博物館・徳島県立博物館・和歌山県立自然博物館・富山市科学博物館・島根県立三瓶自然館・きしわだ自然資料館・きしわだ自然友の会等)

●会期 平成20年5月3日(土)～5月5日(月)

●会場 丹波市山南町 山南住民センター

●展示品 白亜紀の動植物の化石

●入場者数 4,339人

■移動展「和泉層群の化石」

●主催 徳島県立博物館

●共催 東かがわ市教育委員会

●会期 平成20年7月19日(土)～8月31日(日)

- 会場 東かがわ市歴史民俗資料館
- 展示品 和泉層群から産出したアンモナイトや二枚貝、巻き貝などの化石
- 入場者数 523人

■移動展「海部郡の古代・中世」

- 主催 美波町日和佐図書・資料館・徳島県立博物館
- 会期 平成20年7月19日(土)～9月8日(日)
- 会場 美波町日和佐図書・資料館
- 展示品 美波町で採集した考古資料、海部郡に関する考古・歴史資料の模型・写真
- 入場者数 431人

■移動展「那賀川平野の貝化石」

- 主催 阿南市立阿波公方・民俗資料館・徳島県立博物館
- 会期 平成19年9月25日(日)～11月9日(日)
- 会場 阿南市立阿波公方・民俗資料館

- 展示品 那賀川平野の地下から産出した貝化石、解説パネル等
- 入場者数 956人

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった(年報7号参照)。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

開館20年(22年度)が近づくが、厳しい財政状況のもとで、やはり常設展更新の実現可能性は乏しいが、できるだけ早い時期での更新が実現するよう、望ましい展示のあり方を絶えず検討することが求められる。そこで、19年度には、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた(年報17号参照)。実現する見込みはないため、この計画案に沿いながら、22年度に可能な範囲での改善を集中的に行う「リフレッシュ事業」を実施することとしている。

また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、20年度には次の調査を行った。

- ・沖縄県立博物館・美術館：新設館の展示状況の調査

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

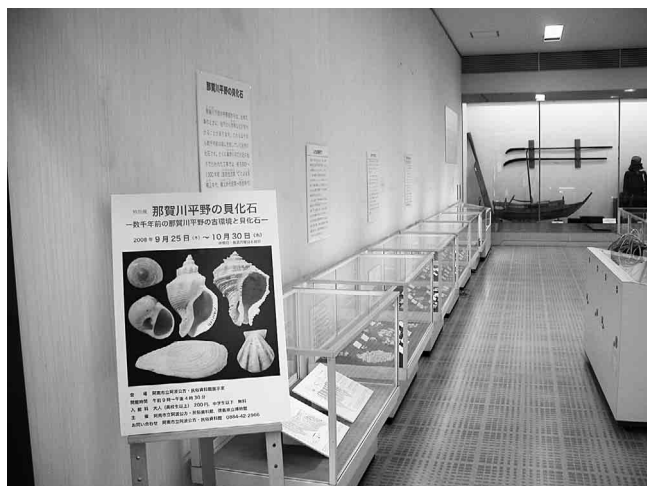
常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

しかし、購入による資料収集ができなくなっていることから、テーマ性をもったコレクションづくりが困難になっているため、展示替えを継続していくことも容易ではない。

20年度の取り組みは、次のようなものである。

①部門展示(人文)における自然史系展示の導入

多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示(人文)の展示替えに自然史のテーマを試験的に組み込むことにした。実績としては2回行った(地学、植物各1回)。これに伴い、展示に関する業務全体を見直す趣旨から、トピックコー



会場風景 1



会場風景 2

ナーをいったん休止した。

②チャレンジコーナーの設置

以前から展示室における体験活動への要望が多かったことから、新たに「チャレンジコーナー」と名付けた体験コーナーを設置した。土器パズル、スタンプ、塗り絵を置いて利用してもらっている。

③展示解説の促進

・部門展示における展示解説

「和泉層群の化石」「浜辺の植物」「からさお」「新着資料紹介 笠井氏の見た大阪万博／栗飯原家所蔵人形頭コレクション」で展示解説を実施した。

・「びっくり箱」を使用した展示解説や体験活動を行った。

・常設展ロビーで藍による着色体験を行った。

・常設展示室内数箇所、手作りのセルフガイドを設置・配布した。また、当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい なんでも Q&A」も、展示内容との関連が深いことからコーナーを設けて、観覧者が自由に持ち帰ることができるようにした。

6. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「郷土の発見—小杉榎邨と郷土史研究の曙—」

2008年4月26日発行、A4判64ページ(全カラーページ)、700部+友の会増刷200部

■企画展パンフレット

●第3回企画展展示解説資料「身の回りの「香りの植物」」

2008年10月18日発行、A4判4ページ(全カラーページ)、5,000部

Ⅳ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成20年度は、年間80回（雨天中止1回）の普及行事実施となった（他にクイズラリーを24回を行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、やはり参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座等において、郡部での開催を増やすなどさらに工夫する必要があると考える。

徳島市以外での行事に対しては、地元やその近隣の町からの参加者の割合が増えるが、徳島市、鳴門市、板野郡からの参加者も多い。今後、広報の仕方等、さらに工夫が必要である。

1. 普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月20日(日)	トンボ玉をつくろう①	10人
4月27日(日)	石ヤリをつくろう	25人
6月8日(日)	トコロテンをつくろう②	23人
7月13日(日)	勾玉をつくろう①	50人
8月24日(日)	勾玉をつくろう②	37人
9月28日(日)	土器づくり①(成形)	22人
10月26日(日)	土器づくり②(焼成)	中止
11月16日(日)	火おこし	20人
1月18日(日)	ベーゴマをまわしてみよう	9人
2月8日(日)	トンボ玉をつくろう②	18人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

4月29日(火)	トコロテンをつくろう①(出羽島を歩こう)	37人
5月11日(日)	古墳見学①(香川)	32人
10月19日(日)	伊島を歩こう	19人
11月23日(日)	眉山山麓寺社めぐり(北麓編)	21人
11月30日(日)	古墳見学②(気延山)	29人
12月7日(日)	一宮城を歩こう	33人

3月8日(日) 古墳見学③(鳴門) 25人

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。20年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、阿南市、勝浦町、那賀町、美波町、海陽町などで実施した。

4月20日(日)	海陽町穴喰浦～竹ヶ島の地質見学	9人
5月11日(日)	白亜紀の地層見学(勝浦町)	26人
5月18日(日)	磯の生きもの	66人
5月25日(日)	浜辺の植物かんさつ	13人
7月20日(日)	徳島市中心部の地質見学	16人
7月26日(土)	セミの羽化かんさつ	36人
7月27日(日)	漂着物を探そう!	46人
8月2日(土)	水生昆虫のかんさつ	84人
8月9日(土)	川魚かんさつ	38人
9月6日(土)	鳴く虫のかんさつ	32人
10月12日(日)	河口の生きもの	25人
10月13日(月)	アサギマダラを探そう	17人
10月19日(日)	那賀川上流の地層見学	22人
2月15日(日)	動物の冬越し	20人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う



野外自然かんさつ 「磯の生きもの」

恒例の行事で、学芸員のほか4名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

4月27日(日)	春の野草かんさつ	4人
6月22日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう!①	15人
8月9日(土)	貝化石標本をつくろう	27人
8月10日(日)	化石のレプリカをつくろう	30人
8月22日(金)	標本の名前を調べる会	45人
8月31日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で化石を見よう!①(午前)	9人
〃	ミクロの世界—電子顕微鏡で化石を見よう!①(午後)	3人
9月28日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう!②	10人
10月26日(日)	秋の野草かんさつ	13人
11月30日(日)	木の葉化石の発掘体験	22人
12月21日(日)	アンモナイト標本をつくろう	37人
1月18日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で化石を見よう!②	1人
3月15日(日)	落ち葉の中のいきものたち	19人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月27日(日)	葉っぱのスタンプと押し葉カルタをつくろう	32人
12月14日(日)	リースをつくろう	33人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

6月29日(日)	徳島の前方後円墳	23人
8月10日(日)	福井県の恐竜発掘調査	19人
9月7日(日)	徳島の銅鐸	21人
1月25日(日)	聖(ひじり)たちの中世	15人
2月7日(土)	希少野生生物保全講座	
	①概論：なぜ生物は絶滅するのか?	14人
	②植物の多様性と分類	14人
	③希少野生植物の保全	16人
2月8日(日)	希少野生生物保全講座	
	④希少昆虫類の保全	14人
	⑤希少淡水魚の保全	10人
2月22日(日)	念仏踊りと阿波	24人

■歴史文化講座(移動講座)

移動博物館の試みとして行っているもので、学芸員

が講師をつとめ、館外の社会教育施設と共催で行う講座。20年度は5～8月に阿波海南文化村で実施した。

5月25日(日)	小正月の火祭り	と2つの左義長	24人
6月22日(日)	庸八焼について		25人
7月27日(日)	海部地方の盆棚		37人
8月31日(日)	海陽町立博物館の収蔵民具から探る昔のくらし		21人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「郷土の発見」展示解説

第1回：4月29日(火)	参加者	19人
第2回：5月11日(日)	参加者	35人

●企画展「郷土の発見」記念講演会

5月18日(日)	参加者	100人
----------	-----	------

●企画展「動物大集合」展示解説

第1回：7月20日(日)	参加者	37人
第2回：7月27日(日)	参加者	15人
第3回：8月3日(日)	参加者	45人
第4回：8月10日(日)	参加者	10人
第5回：8月17日(日)	参加者	32人
第6回：8月24日(日)	参加者	38人

●企画展「香りの世界」展示解説

第1回：10月19日(日)	参加者	24人
第2回：11月2日(日)	参加者	30人

●企画展「香りの世界」関連行事

5月11日(日)	香りの植物を探そう①	6人
8月3日(日)	香りの植物を探そう②	10人

●部門展示「和泉層群の化石」展示解説

4月27日(日)	参加者	15人
----------	-----	-----

●部門展示「浜辺の植物」展示解説

8月3日(日)	参加者	18人
---------	-----	-----

●部門展示「からさお」展示解説

11月9日(日)	参加者	12人
----------	-----	-----

●部門展示「笠井氏の見た大阪万博」「栗飯原家所蔵人形頭コレクション」展示解説

第1回：2月1日(日)	参加者	13人
第2回：3月1日(日)	参加者	8人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参

加者全員に記念品を贈呈している。

4月12日	104人 (小 104・中0・高0)
4月26日	75人 (小 75・中0・高0)
5月10日	59人 (小 59・中0・高0)
5月24日	112人 (小 111・中0・高1)
6月14日	85人 (小 84・中1・高0)
6月28日	86人 (小 79・中2・高5)
7月12日	110人 (小 106・中3・高1)
7月26日	119人 (小 115・中2・高2)
8月9日	92人 (小 87・中5・高0)
8月23日	120人 (小 112・中8・高0)
9月13日	90人 (小 84・中5・高1)
9月27日	104人 (小 103・中0・高1)
10月11日	117人 (小 115・中2・高0)
10月25日	108人 (小 106・中2・高0)
11月8日	96人 (小 95・中1・高0)
11月22日	88人 (小 83・中1・高4)
12月13日	63人 (小 61・中2・高0)
12月27日	69人 (小 64・中1・高4)
1月10日	82人 (小 79・中2・高1)
1月24日	94人 (小 91・中3・高0)
2月14日	70人 (小 69・中0・高1)
2月28日	93人 (小 91・中2・高0)
3月14日	104人 (小 99・中4・高1)
3月28日	80人 (小 70・中7・高3)
参加者合計	2,220人 (小2142・中53・高25)

■その他の普及行事

●**博物館こどもの日フェスティバル** 5月5日(月)
小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「動物と化石の標本にさわってみよう」「化石クリーニング実演」「ミクロの世界—顕微鏡で虫や植物を見てみよう—」「銅鐸のつくりかたをみてみよう」「土器パズルを完成させよう」「鷺の門のポップアップカード作りに挑戦しよう」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：810人

●**夜の博物館 ドキドキ体験ツアー** 8月2日(土)
夜間の常設展示室と考古収蔵庫、企画展示室を解説付きで見学した。常設展示室では、チラノサウルスの頭部を間近に観察できるようにしたり、夏の昆虫や植物についての解説を行ったりした。

参加者：62人

●**科学体験フェスティバル in 徳島** 出展

8月9日(土)・8月10日(日)

博物館ボランティアメンバーが中心となって、徳島

大学で開催された科学体験フェスティバル in 徳島で「影絵遊び」というテーマで出展し、手作り影絵で昔話を上演した。

また、参加者に博物館資料をもとにした影絵づくりを体験してもらった。

参加者1,192人

●**博物館文化の日フェスティバル** 11月3日(月)

幼児から小中学生を対象に、クイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「古代の衣服」「動物標本タッチング」「化石のレプリカづくり」「ミクロの博物館」「飛ぶタネ」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：839人

●**中津浦ウォーク** 11月23日(日)

「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト実行委員会として共催

徳島市八万町中津浦地区を中心とした歴史散歩。

参加者 47人

●**博物館Vキング** 2月11日(水)

博物館ボランティアメンバーが中心となって「ボランティアスタッフと楽しい仕事をしよう！」をテーマとして、次のような内容で実施した。「スタンプで展示づくり」「折り紙づくりにチャレンジ」「暗やみで光る折り紙工作」「植物でしおりをつくろう」「貝がら工



博物館Vキング

作をしよう」

参加者 2,133人

●八万町ウォークラリー 3月20日(金)
 「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト実行委員会として共催)

徳島市八万町域を中心としたウォークラリーを実施した。

参加者 107人

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業や「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- ①善通寺市中央小学校 10月29日(水)
1～6年生 24名
昔の暮らし 庄武
- ②阿南市中野島小学校 11月7日(金)
6年生 32名
地層 中尾
- ③徳島市上八万小学校 11月13日(木)
6年生 34名
地層 中尾
- ④阿波市一条小学校 11月18日(火)
6年生 48名
地層 中尾

- ⑤阿波市柿原小学校 11月18日(火)
6年生 34名
地層 中尾
- ⑥徳島市八万南小学校 11月18日(火)
4年生 130名
昔の道具 磯本



昔の道具 (八万南小学校)

- ⑦早稲田実業学校 12月19日(金)
2年生 7名
徳島の自然～「眉山」 佐藤・山田・小川
- ⑧海部郡赤松小学校 1月9日(金)
6年生 3名
地層のでき方 中尾
- ⑨八万南小学校 1月23日(金)
3年生 30名
展示品等への質問 中尾・辻野・佐藤・高島

(2) 学校の授業への講師派遣(出前授業)

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①徳島文理小学校(徳島市) 5月1日(木)
6年生 69名
火おこし(講師:魚島)
- ②加茂名小学校(徳島市) 5月14日(水)
6年生 75名
火おこし(講師:魚島)
- ③一宮小学校(徳島市) 5月20日(火)
1～6年生 89名
水生生物観察会(講師:山田)
- ④宝田小学校(阿南市) 5月30日(金)
6年生 27名
火おこし(講師:魚島)



水生生物観察会（入田小学校）

- ⑤牛島小学校（吉野川市） 6月6日（金）
6年生 18名
復元青銅器と火おこし（講師：魚島）
- ⑥立江小学校（小松島市） 6月10日（火）
6年生 14名
復元青銅器と火おこし（講師：魚島）
- ⑦椿小学校（阿南市） 6月11日（水）
3・4年生 12名
水生生物調査（講師：山田）
- ⑧城東小学校（徳島市） 6月17日（火）
3年生 92名
チョウ・昆虫の体のつくり（講師：山田）
- ⑨小松島小学校（小松島市） 6月24日（火）
3年生 22名
昆虫（蝶）の体のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑩入田小学校（徳島市） 7月8日（火）
3～6年生 44名
水生生物観察会（講師：山田）
- ⑪鳴門高校（鳴門市） 8月5日（火）
体験入学（中学生） 34名
鳴門周辺の化石について（講師：辻野）
- ⑫鳴島小学校（吉野川市） 9月16日（火）
4年生 52名
昔の暮らし～昔の道具について調べよう～
（講師：磯本）
- ⑬津田小学校（徳島市） 9月17日（水）
3年生 123名
昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑭津田小学校（徳島市） 10月28日（火）
4年生 145名
昔の暮らし（講師：庄武）
- ⑮国府小学校（徳島市） 11月12日（水）
4年生 138名
昔の暮らし（講師：磯本）
- ⑯宮井小学校（徳島市） 11月14日（金）
4年生 15名
昔の暮らしとまちづくり（講師：庄武）
- ⑰県立鞆学校（徳島市） 11月17日（月）
4年生 3名
昔の暮らしとまちづくり（講師：磯本）
- ⑱香川県立丸亀高校 11月17日（月）
2年生 61名
地層と化石について（講師：中尾）
- ⑲新町小学校（徳島市） 11月20日（木）
3年生 27名
新町川探検（講師：佐藤）
- ⑳海南中学校（海陽町） 11月21日（金）
1年生 45名
中世の人々の生活（講師：長谷川）
- ㉑八万小学校（徳島市） 11月21日（金）
4年生 108名
八万町の昔探訪（講師：磯本・豊崎）
- ㉒新野東小学校（阿南市） 11月27日（木）
4年生 11名
昔の暮らし（講師：庄武）
- ㉓橘小学校（阿南市） 11月28日（金）
6年生 30名
大地のつくり（講師：中尾）
- ㉔八万南小学校（徳島市） 12月18日（木）
4年生 130名
八万町の昔探訪（講師：磯本・向原）
- ㉕八万小学校（徳島市） 1月8日（木）
4年生 108名
八万町の昔探訪（講師：磯本）
- ㉖藍住東中学校（板野郡） 2月18日（水）
1年生 126名
平和学習（講師：長谷川）
- ㉗南部中学校（徳島市） 3月10日（火）
1年生 224名
中世～近世の部落史（講師：長谷川）

(3) 博物館資料の学校への貸出し

小・中・高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①市場中学校（阿波市） 6月7日～6月21日
貸出資料：石鏃・トロトロ石器・須恵器・蓋付壺・堤瓶・蓋・杯
利用目的：社会科（歴史）
- ②佐那河内中学校（佐那河内村）6月19日～6月25日
貸出資料：徳島空襲被災遺物ほか
利用目的：総合的学習
- ③応神中学校（徳島市） 8月25日～9月7日
貸出資料：徳島空襲関係写真
利用目的：文化祭
- ④徳島中学校（徳島市） 9月1日～9月10日
貸出資料：徳島空襲被災遺物ほか
利用目的：文化祭
- ⑤住之江小学校（大阪市） 9月15日～11月3日
貸出資料：絵巻物複製 1点
利用目的：図画工作
- ⑥論田小学校（徳島市） 10月24日～11月4日
貸出資料：ナウマンゾウ臼歯・三葉虫・アンモナイト・植物化石・三角貝・サメの歯
利用目的：理科
- ⑦論田小学校（徳島市） 11月11日～11月21日
貸出資料：礫岩・砂岩・泥岩・結晶片岩・軽石・御影石・火山岩・凝灰岩
利用目的：理科
- ⑧八万南小学校（徳島市） 11月19日～12月15日
貸出資料：徳島空襲被災遺物ほか
利用目的：社会科
- ⑨小松島中学校（小松島市） 1月26日～2月10日
貸出資料：徳島空襲被災遺物ほか
利用目的：平和学習

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①鳴門教育大学附属中学校 7月2日～7月3日 2名
館内案内、石のナイフを使う、体験キットづくり、美術資料の整理、「勾玉づくり」の準備と実践
- ②八万中学校 7月8日～7月10日 4名
館内案内、石のナイフを使う、地学資料の整理、収蔵庫見学、美術資料の整理、文化の森の昆虫観察、貝化石クリーニング、体験キットづくり
- ③鳴門工業高校 11月11日～11月12日 2名
植物標本の画像入力、古美術資料の整理、地学標本の整理



職場体験（附属中）

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。

- ①丸亀高校人権・同和教育研修
 - 7月2日(水)
 - ・ケガレ観について（講師：長谷川）
- ②小松島西高校人権教育研修会
 - 7月8日(火) 参加者50名
 - ・部落史について（講師：長谷川）
- ③平成20年度教職10年経験者研修
 - 7月29日(火) 参加者20名
 - ・歩いて地図づくり（講師：辻野）
 - ・水生昆虫（講師：山田）
 - 7月30日(水) 参加者19名
 - ・フィールドワーク（石造物ウォッチング）
（講師：磯本）
 - ・石器の種類とその加工法（講師：高島）
- ④平成20年度初任者研修
 - 8月19日(火) 参加者2名
 - ・ガイダンス（講師：大橋）
 - ・博物館の管理と運営（講師：大原）
 - ・館内施設見学（講師：大橋）
 - ・博物館での資料保存とIPM（講師：魚島）
 - 8月26日(火) 参加者4名
 - ・歴史資料の整理（講師：長谷川）
 - ・植物標本作製（講師：茨木）
 - 8月28日(木) 参加者4名
 - ・八万町フィールドワーク（講師：磯本）
 - ・勾玉づくりの準備（講師：魚島）
- ⑤海部郡中学校社会科部会研修会
 - 11月21日(金) 参加者6名
 - ・歴史的分野における地域教材の位置づけについて
（講師：長谷川）

⑥勝浦郡小中学校理科主任研修会

- 11月28日(金) 参加者7名
・勝浦町出土化石等の展示見学(講師:辻野)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

3. 博物館友の会

●会員(平成20年度末)

個人会員(年会費2,000円)	106人
(半年会費1,000円)	3人
家族会員(年会費3,000円)	72組 267人
(半年会費1,500円)	4組 12人
賛助会員(年会費10,000円)	2人

●役員(平成20年度)

会 長:大杉洋子
副会長:関真由子・行成正昭・大原賢二(博物館長)
幹 事:和田賢次・多田精介・澤祥二郎・南部洋子
 鳥居 喬・松家京子
監 査:石尾和仁・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

20年度博物館企画展の図録の印刷・頒布を行った。

②広報活動

20年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.37~39を発行し、会員に送付した。

③野外活動等

会員を対象とした行事を10行事実施した。

○「化石をさがそう」

日 時:5月25日(日)
場 所:勝浦郡上勝町
参加者:27名

○「日帰り研修の旅」

日 時:6月1日(日)
場 所:大阪府堺市
参加者:79名

○「虫と植物の観察」

日 時:7月6日(日)
場 所:園瀬川河川敷

参加者:12名

○「夜の昆虫採集会」

日 時:7月12日(土)
場 所:文化の森
参加者:29名

○「海藻おしばでポストカードをつくろう」

日 時:8月21日(木)・28日(木)
場 所:博物館実習室
参加者:19名



化石をさがそう

○「一泊研修の旅」

日 時:10月4日(土)・5日(日)
場 所:兵庫県丹波市他
参加者:39名

○「神山町を歩こう」

日 時:10月13日(月)
場 所:名西郡神山町
参加者:28名

○「八万町の昔を探ろう」

日 時:11月23日(日)
場 所:徳島市八万町
参加者:21名

○「折紙で恐竜をつくりませんか」

日 時:2月1日(日)
場 所:博物館実習室
参加者:16名



八万の昔を探ろう

○「七草がゆとおみいさんをつくろう」

日 時：2月22日(日)

場 所：文化の森・博物館実習室

参加者：16名

4. 普及教育関係出版物

■ガイドブック「八万町の昔を探ろう」

(「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト実行委員会により編集・発行)

2009年3月20日発行、A5判134ページ、9000部

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンス Q&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成20年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 71 (2008年6月25日発行)

Culture Club

「城の記憶—須木一胤と『旧徳島城図』—」

情報ボックス

本の紹介 山本候充編「日本銘菓事典」

企画展 「動物大集合—動物標本の世界—」

館蔵品紹介 法隆寺壁画保存方法調査報告

レファレンス Q&A 光るミミズがいるって本当？

●No. 72 (2008年9月15日発行)

Culture Club

「絶滅のおそれのある小魚—カワバタモロコ—」

情報ボックス 浜辺の植物 所変われば

企画展 「香りの世界—誘・癒・遊—」

野外博物館

那賀町(旧木沢村) 坂州の三疊紀後期の地層：寒谷層

レファレンス Q&A

トコロテンはどのようにしてつくるのですか？

テングサが材料だそうです

●No. 73 (2008年12月1日発行)

Culture Club 「テグスになった蛾」

情報ボックス 江戸時代に徳島藩はなかったという話

特別陳列 「空から見た徳島」

館蔵品紹介 鉄丸石

レファレンス Q&A

「マイキリ」は大昔の火おこしの道具ではないと聞いたのですがほんとうですか？

●No. 74 (2009年3月25日発行)

Culture Club

「早春のヒマラヤ照葉樹林帯を歩く」

速報 徳島市内でプラタナスグンバイを発見
企画展

「シーラカンス展—ブラジルの化石と大陸移動の証人たち—」

館蔵品紹介 雛掛軸

レファレンス Q&A

蒔絵師 桃枝について教えてください。

■その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。12万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したA3判またはB4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。遠足の問い合わせがあった場合に、FAX等で送付した。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を内容別に紹介したパンフレットを改訂し、各学校の全教員へ配付した。

5. 徳島新聞「子ども新聞」への協力

徳島新聞社では、平成20年4月から毎週金曜日の夕刊に「子ども新聞」の掲載を開始した。博物館ではこのコーナーの執筆協力や編集協力(話題提供、校閲)を行っている。今年度、博物館の協力により掲載された記事は39本である。次の2本以外は、p.12~14を参照。

徳島県立博物館(編集協力)(2008.7.18)“夏休みスペシャル 海・山・川・街での発見、遊び”

徳島県立博物館(編集協力)(2008.7.25)海

V シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会等に貢献する活動を行うことは、博物館の重要な役割であると考え、博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んで行くことにしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

平成20年度に行ったレファレンス件数の分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

記録を職業別で見ると、一般からの問い合わせが52%、マスコミ・出版関係が21%で、これらで全体の73%を占め、教員・教育委員会関係や官公庁、児童・生徒などからの問い合わせはそれぞれ7%以下であった。

●分野別レファレンス件数(平成21年3月31日現在)

分 野	件 数
動物（脊椎）	53
（無脊椎）	29
（昆虫）	60
植 物	37
地 学	91
考 古	8
歴 史	60
民 俗	20
美術工芸	2
保存科学	0
そ の 他	4
合 計	364

2. 各種委員会委員等の受諾

平成19年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

大原賢二

日本博物館協会評議員

（平成20.4.1～1年間）

徳島県博物館協議会会長

（平成20.4.1～1年間）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー

（平成16.8.16～ ）

徳島県田園環境検討委員会委員

（平成20.1.17～2年間）

マリニピア沖洲環境調査検討委員会委員

（平成20.2.1～22.1.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成18.7.1～21.6.30）

佐藤陽一

とくしま川づくり委員会委員

（平成12.12.15～21.6.30）

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成14.4.11～21.3.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成9.7.1～21.6.30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」

（平成19.4.26～21.3.31）

国土交通省四国地方整備局「吉野川学識者会議」委員

（平成19.5.28～21.3.31）

日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長

（平成15.4.1～）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー

（平成16.8.16～）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成19.4.1～21.3.31）

中国四国農政局那賀川農地防災事業所「那賀川地区環境検討委員会」委員

（平成19.12.6～21.3.31）

中国四国農政局四国東部農地防災事業所「吉野川下流域農地防災事業に係る環境検討委員会」委員
(平成19.12.20～21.3.31)

環境省中国四国環境事務所「中国四国地方里地里山における淡水魚類保全検討会」委員
(平成20.9.4～21.3.31)

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境検討委員会」委員
(平成20.12.4～22.3.31)

環境省中国四国環境事務所「四国圏における生態系ネットワーク形成のための調査検討委員会」委員
(平成20.12.12～21.3.31)

小川 誠

徳島県ビオトープアドバイザー
(平成14.4.11～21.3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成15.7.1～21.6.30)

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(平成19.4.1～21.3.31)

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成21.4.1～22.3.31)

茨木 靖

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
(平成16.8.16～)

徳島県田園環境検討委員会委員
(平成18.1.17～2年間)

山田量崇

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境検討委員会」委員
(平成20.12.4～22.3.31)

高島芳弘

徳島市立考古資料館協議会委員
(平成19.7.1～21.6.30)

徳島県中世城館跡総合調査調査員
(平成19.6.1～21.6.30)

長谷川賢二

日本博物館協会常務委員
(平成18.4.1～21.3.31)

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
(平成19.5.1～)

徳島県中世城館跡総合調査調査員
(平成19.6.1～21.3.31)

文部科学省「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」学芸員の養成に関するワーキンググループ委員
(平成20.4.21～21.3.31)

日本山岳修験学会理事
(平成19.11月～21.11月)

庄武憲子

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料館協議会委員
(平成19.4.1～20.3.31)

阿南市史民俗編執筆委員
(平成20.10.17～22.5.31)

磯本宏紀

阿南市史民俗編執筆委員
(平成20.10.17～22.5.31)

新鳥取県史編さん調査委員
(平成20.4.1～21.3.31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「IV 普及教育」の「2 学校教育支援事業」に記載している(p.28～29)。

4月8日 長谷川賢二

徳島県立二十一世紀館「平成20年度文化の森新任及び転任職員人権研修会」で講演「部落史から考える現代の課題」(文化の森ミニシアター)

5月21日 長谷川賢二

徳島県自治研修センター「平成20年度新規採用職員研修 人権問題Ⅱ・Ⅲ(同和問題[歴史/行政])」で講演「部落史から考える現代の課題」

6月14日 長谷川賢二

東かがわ市歴史民俗資料館「平成20年度東かがわ市歴史講座」で講演「水主神社外陣大般若経と阿波国薩摩郷」(大内公民館)

6月25日 長谷川賢二

広島県歴史民俗資料館等連絡協議会第55回研究会で講演「徳島県立博物館の中期活動目標と自己点検・評価」(廿日市市商工保険会館)

7月10日 辻野泰之

兵庫県立伊川谷北高等学校で講演「高校生の職業選択に資する体験談」

8月6日 長谷川賢二

シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の仏教と地方寺院」「熊野信仰の広がり」(徳島県立総合福祉センター)

- 8月6日 魚島純一
徳島県立文書館「古文書保存講座」で講演「文書資料の保存科学」
- 8月20日 長谷川賢二
シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立」「戦国軍記の歴史意識」（徳島県立総合福祉センター）
- 9月5日 長谷川賢二
徳島県西部総合県民局「地域づくり実践講座」で講演「剣山とその周辺の歴史・文化を学ぶ」（つるぎ町農業構造改善センター）
- 9月14日 長谷川賢二
徳島県立総合教育センター「平成20年度オンリーワンとくしま学講座」で講演「四国遍路② 四国遍路の形成」
- 10月11日 長谷川賢二
島根県立八雲立つ風土記の丘「平成20年度風土記の丘教室」で講演「阿波忌部の世界」
- 10月21日 佐藤陽一
徳島大学環境防災研究センター「大津西小学校農業水路の身近な生き物環境学習～幻の魚“カワバタモロコ”を探せ！～」(鳴門市大津町)
- 11月27日 佐藤陽一
正法寺川を考える会「魚類調査（藍住北小学校4年生）」(藍住町、正法寺川)
- 12月2日 長谷川賢二
佐那河内村教育委員会「佐那河内村人権大学講座」で講演「部落史から考える私たちの課題」(佐那河内村農業総合振興センター)
- 12月6日 佐藤陽一
徳島県立総合教育センター「平成20年度オンリーワンとくしま学講座：吉野川の魚類①」
- 12月9日 長谷川賢二
神山町教育委員会「神山町人権大学講座」で講演「部落史から考える私たちの課題」(神山町農村環境改善センター)
- 12月21日 佐藤陽一
徳島県立総合教育センター「平成20年度オンリーワンとくしま学講座：吉野川の魚類②」
- 1月13日 長谷川賢二
日本博物館協会「「博物館評価制度等の構築に関する調査研究事業」に係わるヒアリング」で事例紹介「徳島県立博物館における評価の現状」(商工会館)
- 1月16日 磯本宏紀
阿波の文学と歴史セミナー「阿波商人」で講演「農具市と民具の流通」(徳島市立徳島城博物館)

- 1月18日 辻野泰之
福井県立恐竜博物館恐竜博物館カレッジ連携博物館セミナーで講演「恐竜時代のアンモナイト」
- 1月31日 長谷川賢二
徳島大学大学開放実践センター「公開講座 空海と歩く～四国阿波遍路2009」で講演「四国遍路の歴史学」
- 3月3日 長谷川賢二 徳島県人権教育研究協議会「2008年度南部ブロック社会人権教育・啓発推進者研修会」で講演「部落史から考える私たちの課題」(日和佐公民館)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成20年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次のとおり。

- 佐藤陽一
徳島大学総合科学部非常勤講師(流域圏環境生態学)
(平成20.5.26)
- 小川 誠
徳島大学総合科学部非常勤講師(科学と人間)
(平成20.6.15)
- 中尾賢一
徳島大学総合科学部非常勤講師(現代GP体験ゼミ)
(平成20.5.31)
- 長谷川賢二
鳴門教育大学嘱託講師(博物館特論)
(平成20.4.11～21.3.31)
- 魚島純一
四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(平成20.4.3～20.9.30)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに受け入れることにしている。

平成20年度は、8月19日(火)～23日(土)に実習生の受け入れを行った。実習生は12人で、大学別の内訳は

次のとおりである。

静岡大学	1人	四国大学	5人
京都女子大学	3人	梅光学院大学	1人
愛媛大学	1人	東京学芸大学	1人

カリキュラムは下表のとおりである。実習生をA・B2班に分け、学芸員と普及課職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

20年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●みどりクラブ（旧称：植物談話会）例会

開催日：毎月1回土曜日
 会場：博物館講座室
 参加者：15名程度

●徳島地域文化研究会・第6回総会および連続講座第3回

開催日：4月5日(日)
 会場：博物館講座室
 参加者：15名

●2008年度鳴門史学会研究大会

開催日：10月18日(土)
 会場：多目的活動室
 参加者：80名

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ（旧称：植物談話会）

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回（土曜日の18：30から）、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約25名で、毎回10～15名の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学(年2回)、機関誌『四国中世史研究』の刊行（隔年1冊）を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年3回程度）、機関誌『徳島地域文化研究』の刊行（年刊）等を行っている。

●四国魚類研究会

四国の大学・研究機関が年1回持ち回りで事務局を担当し開催する研究発表会。平成20年度は当館が事務局を担当して平成21年3月7～8日に国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）で開催した。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館（園）が加盟している。4県が持ち回り

平成20年度 博物館実習カリキュラム

月/日	午前（9：30～12：15）			午後（13：00～16：00）		
8/19 (火)	ガイダンス（大橋）	実習室十講座室	全員	博物館での資料保存とIPM（魚島）	実習室・歴民収蔵庫	全員
	博物館の管理と運営（大原館長）					
	館内施設見学（大橋）					
8/20 (水)	展示解説・発送（豊崎・向原）	展示室・実習室	全員	魚類の採集と標本作り（佐藤）	屋外&実習室	A班
				図書の整理（庄武）	書庫	B班
8/21 (木)	昆虫標本の整理（山田）	収蔵庫・分析室	A班	海藻押し葉作り（小川）	実習室	A班
	拓本・考古資料の整理（高島）	実習室	B班	植物標本の整理（茨木）	分析室1・2	B班
8/22 (金)	標本の名前を調べる会（中尾）				講座室・実習室	A班
	博物館資料の保存科学的調査（魚島）	電顕・X線室	B班	歴史資料の整理（長谷川）	歴民収蔵庫	B班
8/23 (土)	美術資料の取り扱い（大橋）	講座室・歴民	全員	簡易地図の製作方法ほか（辻野）	屋外	A班
					民俗資料の整理（磯本）	歴民収蔵庫

で2年ずつ事務局をつとめることになっており、20・21年度は徳島県立近代美術館が事務局館をつとめている。当館は徳島県幹事館になっている。

20年度の役員会及び総会は次のとおり徳島市文化の森で開催された。

●20年度役員会・総会

日時：7月29日(火)10:30～

会場：徳島県立近代美術館 講座室

議事：平成19年度事業報告及び決算報告について

役員改選について

平成20年度事業計画及び予算について

その他

講演：須藤茂樹氏（徳島市立徳島城博物館学芸員）

演題：「蜂須賀家の美術品収集をめぐって」

●研修・視察

日時：7月30日(水)10:00～12:30

場所：徳島県立近代美術館 講座室

内容：日本博物館協会からの本部報告

視察：徳島県立近代美術館 展示室3

内容：特別展「アメリカ版画の今—5つの工房から」

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成19年3月末現在では51館になっている。当館が事務局をつとめている。

●20年度事業

①役員会の開催

6月17日(火)、徳島県立博物館応接室にて開催した。

②総会の開催

日時：6月17日(火)14:30～16:30

場所：徳島県立博物館講座室

議事：19年度事業報告及び決算報告

19年度監査報告

20年度役員選出

20年度事業計画及び会計予算

その他

講演：栗原祐司氏（文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官）

「新しい時代の社会教育施設の在り方について」

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧を作成して配布した。

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.28、29、30を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者11名

日時：21年2月27日(金)13:30～16:30

場所：東かがわ市歴史民俗資料館と東かがわ市引田庁舎引田公民館

内容：講演会と引田ひな祭りおよび施設見学

講演：萩野憲司氏（東かがわ市歴史民俗資料館学芸員）

「東かがわ市歴史民俗資料館と観光施設との連携」

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、35機関・団体が加入している。

20年度は、第13回総会（9月25～26日）が福岡市で開催され、22機関・団体から30名の参加があった。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。また、第10回総会以降、事務局構成団体に入り、人権ネットの運営についても参画してきたが、今回の総会をもって任を終えた。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが16年4月27日付けで設立され、43館園・団体の学芸員が参加している。

20年度（事業年度は1月～12月）は、地域自然環境情報提供事業として収蔵品データベース整備事業と自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会（3回）、博物館連携推進事業として標本救済ネットワークショップとフォーラム「自然史博物館常設展示のリニューアルを考える」を開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座を開催し、プラスチック封入標本作成講座や大台ヶ原GIS講座などを行った。当館としても、各事業にメンバーとして参加協力し、「恐竜を生かしたまちづくりシンポジウム（丹波市）」については移動展として協力した。

Ⅵ 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近ではインターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内リーフレット・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先	
小学校	220ヶ所
中学校	93
高等学校・その他学校	53
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	58
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	34
博物館施設	50
宿泊施設	34
報道関係機関等	77

●催し物案内の電子メールサービス

登録者 (20年3月末現在の登録者286名)

●報道機関への資料提供

20年度は次のような資料提供を行った(各月の催し物あない以外)。

- 4月16日 「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 5月23日 「イベント企画運営スタッフ募集の案内」について
- 6月2日 部門展示「浜辺の植物」の展示について
- 7月3日 企画展「動物大集合—動物標本の世界—」の開催について
- 7月9日 移動展「海部郡の古代・中世」の開催について
- 9月12日 移動展「那賀川平野の貝化石」の開催につ

いて

- 9月12日 部門展示(人文)「からさお—阿波の脱穀用具—」の開催について
- 9月26日 企画展「香りの世界—誘・癒・遊—」の開催について
- 10月17日 「博物館文化の日フェスティバル」の開催について
- 12月19日 特別陳列「空から見た世界」の開催について
- 12月19日 部門展示 新着資料紹介「笠井氏の見た大阪万博」
「粟飯原家所蔵人形頭コレクション」の展示について
- 1月14日 「博物館Vキング—ボランティアスタッフとゆかいな博物館イベント—」の開催について
- 3月27日 「シーラカンス展—ブラジルの化石と大陸移動の証人たち—」の開催について

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 7月23日 山田量崇 四国放送テレビ「あさ630」(カブトムシの採り方)
- 10月25日 小川 誠 NHK ニュース(企画展「香りの世界」の紹介)
- 10月23日 小川 誠 徳島中央テレビ(中学生職場体験による企画展「香りの世界」の紹介)
- 10月23日 小川 誠 四国放送テレビ「ゴジカル」(企画展「香りの世界」の紹介)
- 10月29日 小川 誠 徳島中央テレビ(企画展「香りの世界」の紹介)
- 11月16日 茨木 靖 四国放送テレビ「おはようたくしま」(旧吉野川河口のボタンウキクサについて)
- 11月19日 茨木 靖 四国放送テレビ(ミョウガの実)
- 1月24日 庄武憲子 NHK テレビ(部門展示の紹介)
- 2月6日 辻野泰之・中尾賢一 (KSB スーパーJ

チャンネル) (恐竜造形作家, 竹内信善氏が作成したティラノサウルスフィギアについてのコメント)
2月15日 庄武憲子 エーアイテレビ (部門展示の紹介)

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール (以下メール) による催し物案内を毎月行っている (19年3月末現在の登録者286名)。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。平成20年度には記録されたものだけでも32件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ<http://www.museum.comet.go.jp/>を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたためにホームページは<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介 (開館日・交通案内など)
- ・展示案内 (企画展、常設展)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動 (データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物 (展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内)
- ・関連活動紹介 (友の会、博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー (子供向けメニュー、映像コーナーなど)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の各分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入

れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている。平成20年度の主な追加内容については下記のとおりである。

- ・平成20年度文化庁芸術拠点形成事業 (ミュージアムタウン構想の推進)「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクトを掲載した。

B. アクセスについて

トップページのアクセス数の累計および1日あたりのアクセス数は (図1) のとおりである。20年度1年間でトップページに約49,300件のアクセスがあった。累計は順調に伸びているものの、1日あたりのアクセス数は漸減した。

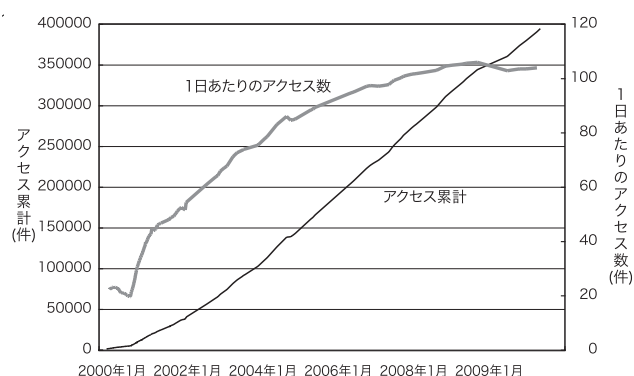


図1 トップページへのアクセス累計と1日当たりのアクセス数

表1 月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総アクセス数	総訪問者数
4月	704,356	46,881
5月	833,114	50,422
6月	939,091	42,006
7月	1,096,946	51,208
8月	1,432,223	73,720
9月	1,115,255	38,752
10月	1,265,667	44,735
11月	1,149,266	37,565
12月	749,126	34,072
1月	657,545	34,998
2月	597,548	30,606
3月	556,307	28,343
合計	11,096,444	513,308

トップページだけでは、細かい解析ができないので、月別のアクセス総数と訪問者数を算定した(表1、図2)。両方とも夏から秋にかけて多い傾向があった。

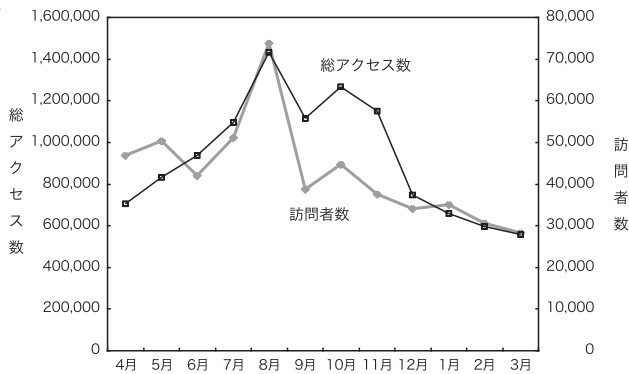


図2 月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

C. 検索語について

ホームページを訪れた人が、グーグルやヤフーのようなインターネットの検索サービスでどのような検索語を入れて当館のホームページを見つけたかを知れば、来訪者の目的を推測することが可能となる。表2にその検索語を示したが、「自由研究」がもっとも多く、また、「中学生」というキーワードが続くことから、小学生よりもむしろ中学生の自由研究のテーマ探しや問題解決に使われていることが推測できる。

表2 主なホームページの検索語

検索語	アクセス数
自由研究	24832
中学生	21584
中学生 自由研究	10900
分布図	5889
ナルト	5424
徳島県立博物館	5127
ゴジラ	4902
エクセル	3655
昔の道具	3531
秋の植物	2991
盆棚	2951
フジバカマ	2880
工作	2350
カラスウリ	2298
葉脈	2026
徳島	1995
イヌノフグリ	1945
葉脈標本	1943
その他	95,860
計	203083

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

18年度より国立科学博物館が行っている自然系博物館における収藏品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収藏品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産維管束植物のデータを整備し提供した。日本語の検索および GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

平成17年度には4期目となるCOMET (徳島県文化・学習情報システム) のコンピュータシステム更改が行われた。平成20年度はその運用開始4年目にあたると。システムの構成は下記のとおりである。

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。4期目の博物館システムの更改については次のような方針で臨んだ。

- ・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
- ・情報提供はインターネットを用い、ブロードバンド(大容量通信)や携帯電話等の新しい通信手段に対応する。

その結果、次のような構成で4期システムを運用することになった。

a) 業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット(1000

BaseT)のLANでつないだ。ファイルサーバ(MacOSXサーバ)とデータベースサーバ(FileMaker Server 8)の2台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。

b) 情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを1台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるようにMacOSXサーバとFileMaker Server 8 AdvancedによるWebデータベースを構築し、新聞記事データベースを公開した。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部(インターネット)用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した(図3)。

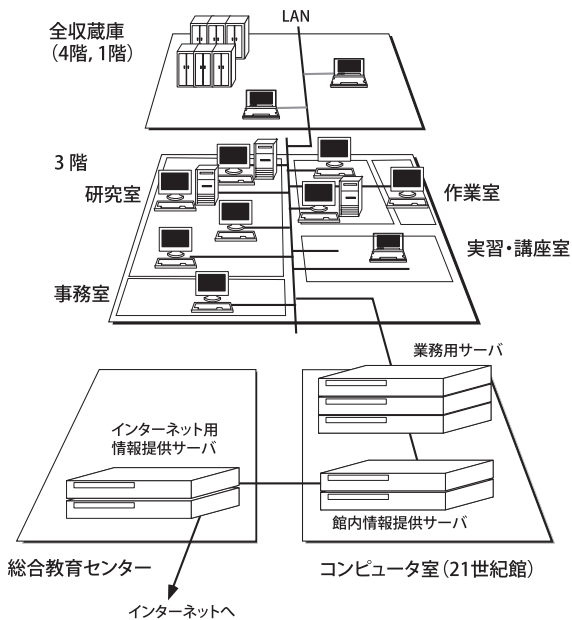
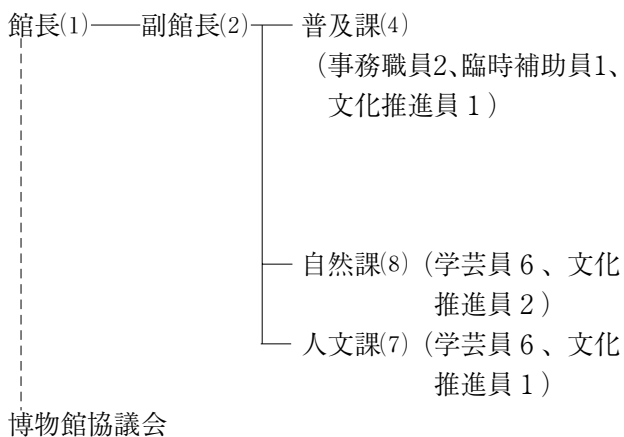


図3 徳島県立博物館の情報システムの構成

Ⅶ 管理運営・マネージメント

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成21年5月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成21年5月1日現在)

館長 大原 賢二
副館長 村澤 良一 (二十一世紀館本務)
副館長 高島 芳弘

〈普及課〉

普及課長 (村澤副館長の兼務)
主査兼係長 豊崎 勲
事務主任 向原 敬夫
臨時補助員 滝本 利那
文化推進員 小川 裕加

〈自然課〉

自然課長 佐藤 陽一 (動物)
専門学芸員 小川 誠 (植物)
〃 中尾 賢一 (地学)
主任学芸員 茨木 靖 (植物)
学芸員 辻野 泰之 (地学)
〃 山田 量崇 (動物)
文化推進員 近藤さえ子
〃 三木田友紀

〈人文課〉

人文課長 (高島副館長の兼務)
専門学芸員 長谷川賢二 (歴史)
〃 大橋 俊雄 (美術工芸)
〃 魚島 純一 (考古・保存科学)
主任学芸員 庄武 憲子 (民俗)

学芸員 磯本 宏紀 (民俗)
文化推進員 武田美千代

(3) 人事異動

〈平成21年3月31日付、カッコ内は前職〉

退職：林 正明 (副館長)

〈平成21年4月1日付、カッコ内は前職〉

転入：村澤 良一 副館長 (二十一世紀館副館長本務)、美術館の副館長も兼務

昇格：高島芳弘・副館長 (人文課長)

魚島純一・専門学芸員 (主任学芸員)

中尾賢一・専門学芸員 (主任学芸員)

教育委員会生涯学習政策課文化の森振興室が、組織改正により文化の森振興総局となり、文化の森各館の課長以上の職員は文化の森振興総局の職務を兼務することとなった。博物館は以下のとおり。

部長 (博物館担当) 大原 賢二
副部長 (博物館担当) 村澤 良一
副部長兼文化班長 (博物館担当)
高島 芳弘
文化班長 (博物館担当) 佐藤 陽一

(4) 平成19年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員

藤本 誉世 (平成20.4.1～20.7.31)
伊川佳代子 (平成20.8.1～21.3.31)

●文化推進員 (非常勤特別職)

坂島美津子 (平成17.4.1～21.3.31)
小川 裕加 (平成20.5.1～)
近藤さえ子 (平成19.4.1～)
三木田友紀 (平成20.4.1～)
武田美千代 (平成19.4.1～)

2. 予算

2月現計予算額 (2月補正後の予算額) を下記に示す。

●平成20年度博物館費 (2月現計予算額) (単位：千円)

20年度予算	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
43,322	14,786	12,100	3,975	10,041	2,420

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成21年 3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会三好市理事 白地小学校長
	土岐 昭典	県中学校校社会科教育研究会会長 藍住町東中学校校長
	結城 孝典	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 池田高等学校教頭
社会教育	吉田 和人	徳島県立佐那河内いきものふれあいの里館長
	一山 典	徳島市考古資料館館長
	大石 雅章 (副会長)	鳴門教育大学教授
学識経験	中村 昌宏 (会長)	徳島文理大学教授
	佐野佳代子	四国放送報道制作局美術部部長代理
	友滝 洋子	藍住町国際交流協会会長
	田中 育代	車いすテニスサークル「ファイフティー・ラブ」選手

3. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

20年度は協議会を1回開催した。

●20年度博物館協議会

日時：平成19年 9月26日(金)13：30～15：30

会場：博物館講座室

- 議事 (1) 平成19年度事業の実施状況について
 (2) 平成20年度事業計画について
 (3) その他

4. 県民参加の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

(1) ボランティア企画型行事の実施

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員との共同でのイベント企画・実施に引き続き取り組んだ。この活動が4年目となる20年度は、継続ボランティア8名に活動の核となってもらい、新規ボランティアの公募を活動期間中随時行い、ボランティア参加への窓口を広げるように努めた。その結果、4名の新規ボランティアの協力と、9名のイベント当日ボランティ

アの協力を得ることができた。また、当館でのイベントの企画・実施の他、徳島大学で行われた「第12回科学体験フェスティバル in 徳島」に博物館ボランティアグループとして出展し、博物館外における博物館活動の普及のためのイベント企画・実施に初めて取り組んだ。

活動の結果は次のとおりである。

- ①第12回科学体験フェスティバル in 徳島への出展
 8月9日(土)・10日(日)

「影絵遊び」と題して、影絵による昔話の上演と、博物館資料をもとにした影絵づくりの指導を行った。昔話上演については、朗読・かたりの会「風」に協力してもらった。

参加者合計：1,192人

- ②博物館 V キングの開催 2月11日(水・祝日)

「ボランティアスタッフと楽しい工作をしよう！」のテーマのもとに、博物館常設展示室において「折り紙の標本クイズにチャレンジ!!」「スタンプで展示づくり」「暗やみで光る折り紙工作」「植物でしおりをつくろう」「貝がら工作をしよう」の5つの催しを実施した。これまでのボランティア企画型行事の中で最高の参加者を得ることができた。

参加者合計：2,133人



科学体験フェスティバル



博物館 V キング

(2) 平成20年度文化庁芸術拠点形成事業『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクトの実施

この事業は、当館、当館友の会、徳島市八万小学校、徳島市八万南小学校、徳島市八万町町内会、徳島市八万町老人会による『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクト実行委員会（事務局は当館）により実施した（事業期間：平成20年7月20日～平成21年3月31日）。

実行委員会を中心として、当館、当館友の会、小学校、町内会等が連携して地域史の調査を実施し、地域教材としても活用できるガイドブック『八万町の昔を探ろう』を作成し、活用することを目的とした。その過程で、出前授業、調べ学習、ワークショップ、パネル展示等を各団体が連携して実施した。具体的には、以下のような事業を実施した。

①八万町地域史の調査の実施

徳島市八万町地域において、主に当館および当館友の会が実施した。

②調べ学習の実施

徳島市八万南小学校及び徳島市八万小学校の2校の4年生を中心に、社会科の時間等において調べ学習を実施し、当館及び当館友の会が小学校側の必要に応じてこれを補助した。

③出前授業の実施

当館及び当館友の会からの講師により、前記2校の小学校において授業を行った。以下のとおり計6回の授業を実施した。

徳島市八万小学校：平成20年8月27日、11月21日、平成21年1月8日

徳島市八万南小学校：平成20年7月9日、11月18日、12月18日



出前授業（八万小学校）

④2回のワークショップの実施

第1回目のワークショップ「中津浦ウォーク」は、試作段階のガイドブック『八万町の昔を探ろう』の原稿などを用いた一般公募の八万町域の歴史散歩の行事を実施した。また、第2回目のワークショップ「八万町ウォークラリー」は、八万町をフィールドとして一般参加のクイズラリーを実施し、参加者全員にガイドブック『八万町の昔を探ろう』を配布して活用を図った。日程と参加者数は以下のとおり。

・第1回ワークショップ 中津浦ウォーク

平成20年11月23日 参加者数：47名

・第2回ワークショップ 八万町ウォークラリー

平成21年3月20日 参加者数：107名

⑤パネル展示の実施

当館常設展示室の入り口付近で、本事業における八万町地域史の調査成果について、パネル展示を作成した（展示期間：平成20年11月26日～平成21年8月現在展示中）。



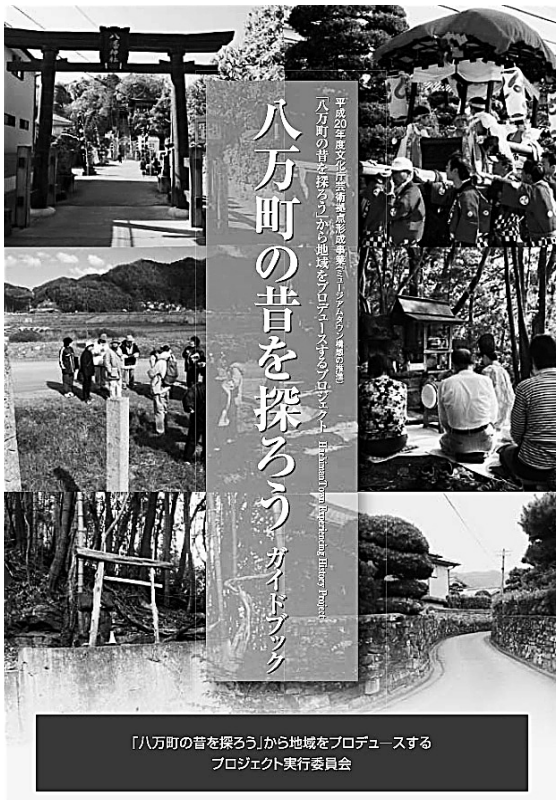
パネル展示

⑥ガイドブック『八万町の昔を探ろう』の作成

地域史調査、調べ学習等の成果からガイドブック『八万町の昔を探ろう』（平成21年3月20日発行 A5判 134ページ 9000部）を、実行委員会が作成し、配布した。

⑦インターネットによる情報発信

実行委員会事務局が、当館ホームページ上に事業を紹介するページを開設し、随時事業の実施状況等について報告した。



ガイドブック

- 3月24日 荒神谷博物館 平野芳英氏ほか 2名
 3月27日 ハンズ・オン・プランニング 染川香澄氏

5. 視察等博物館関係来訪者

- 5月11日 大阪府立大学 福田珠己氏
 5月15日 鳥根県立八雲立つ出雲風土記の丘
 高屋茂男氏
 5月25日 和歌山大学 島津俊之氏ほか 5名
 6月15日 香川県小豆島町文化財保護審議会委員
 40名
 6月17日 答礼人形研究家 高岡美知子氏
 7月18日 宮内庁正倉院事務所 西川明彦氏ほか
 2名
 9月24日 東京大学史料編纂所 村井祐樹氏ほか
 3名
 11月6日 石川県立歴史博物館 脇田晴子氏ほか
 2名
 11月6日 九州国立博物館 臺信祐爾氏ほか 5名
 11月8日 山根事務所 山根一真氏ほか 2名
 12月3日 兵庫県立人と自然の博物館
 三枝春生氏ほか 2名
 2月3日 SHINZEN 造形研究所 竹内信善氏
 2月19日 板橋区立郷土資料館 守屋幸一氏
 2月20日 昭和女子大学 田畑久夫氏
 2月20日 和歌山大学 後藤正人氏ほか 2名
 3月17日 中国社会科学院考古研究所
 安家瑤氏ほか 5名

VIII 中期活動目標と自己点検・評価

博物館活動の改善・活性化を図る目的で、平成16年に中期活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに点検と評価を行っている。中期活動目標はおおむね5年ごとに改訂することとし、本年度は、平成21年度～25年度の新たな中期活動目標に向けた大幅な改訂作業を行った。平成21年度からはこれを指標として、評価を行う。なお、平成20年度の評価に合わせて、この5年間の総括的な評価も行った。

1. 中期活動目標（平成16年9月9日策定）

(1) 中期活動目標の目的

徳島県立博物館（以下「県博」という）は、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に基づいて設置された。この基本構想には県博の基本理念と基本的性格が次のように示されており、これらが活動の目標・指針となってきた。

これらの「基本理念」及び「基本的性格」は今でも県博の指針であることには変わらない。しかしながら、生涯学習社会の進展等に伴う最近の博物館をとりまく状況の急速な変化に伴い、博物館に対して学校教育支援、社会貢献、博物館活動への県民参画等の新たな課題への取り組みが求められるようになった。その一方で、財政状況の悪化による運営予算の削減、事業評価、公的施設の運営の見直し等も進められている。こうした状況を踏まえ、「博物館の望ましい姿」についての議論に基づき今後5年間（平成16年度～平成20年度）に推進すべき活動の目標（中期活動目標）を明確にするとともに、活動の点検・評価を行う際の評価指標を示して共有することとした。この目標に沿って計画的に活動を推進し、点検・評価を行うことにより、博物館活動の改善・活性化を図ることとしたい。

〈基本理念〉

- ・郷土に根ざし世界に広がる博物館—徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設
- ・開かれた博物館—博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設
- ・研究を大切にする博物館—学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設
- ・文化財を守り自然の保全をめざす博物館—県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

- ・人文科学（考古、歴史、民俗、美術〔近代美術を除く〕）と自然科学（動物、植物、地学）が有機的に結びついた総合博物館とします。
- ・収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
- ・国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 中期活動目標の構成

中期活動目標では、県博の果たすべき機能を従来の4つ（資料収集保存、調査研究、展示、普及教育）に新たに社会貢献、情報の発信、マネージメント（経営）を加えた7分野に整理・区分し、それぞれに数項目の活動目標を掲げるとともに、活動を評価する際の指標と目標値を設定した。各評価指標には、年次あるいは計画年度（5年）を通じての目標値を設けることが望ましいが、博物館評価には必ずしも数値の評価にはなじまない内容も含まれることから、全ての評価指標に目標値を設けるには至っていない。今後、順次改訂して行きたい。

(3) 中期活動目標の推進方法

- ・中期活動目標は、博物館協議会での協議を経た上で公表する。
- ・それぞれの活動目標に基づき、館内で具体的な取り組みの年度・年次計画を立てて活動を行う。
- ・年度末に活動実績の評価指標に基づく自己点検・評価を行い、結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績および自己点検・評価の結果を博物館評議会に報告して議論していただき、外部評価意見として年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動の改善に役立てる。

1. 資料の収集・保存と活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。様々な方法で徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する資料の継続的な収集を行います。また、収蔵資料は公共的な財産として安全に保管し、次世代に伝えるとともに、その活用を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
1-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	当該年度における収蔵資料の総数	2008年度末で50万点	
		対前年度増加点数	当該年度の資料点数-前年度の資料点数	9,030点	
		対前年度増加率	(当該年度の資料点数/前年度の資料点数)×100	102.0%	
		新規寄贈件数	当該年度において寄贈された資料の件数	80件/年	
		新規受入図書冊数(雑誌類以外)	購入図書数	400冊/年	
1-2 寄託資料の受け入れ促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	総寄託件数	当該年度に寄託されている資料の総件数		
		新規寄託件数	当該年度に新たに寄託された資料の件数	10件/年	
1-3 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録点数 収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	H20年度までに50%	
1-4 収蔵資料の活用の促進	貸出しなどによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	特別利用(閲覧、貸出、撮影、出版物掲載など)およびそれ以外の利用記録を含む小・中・高への学校貸し出しを除く	50件/年	学校への貸出は「普及教育」参照。
1-5 資料の適切な保管	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保管を図ります。				
1-6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。				
1-7 収蔵スペース確保	将来の収蔵資料の増加に備え、収蔵スペースの確保に向けた方策を探ります。				

2. 調査研究

調査研究は、博物館活動の学術的基盤となる重要な機能です。徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する基礎的な調査研究、資料の保存や展示、普及教育活動等に関する博物館学的調査研究を行うとともに、成果の博物館の諸活動へのフィードバックを図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
2-1 調査研究活動の強化	調査研究方針に沿って課題調査及び分野別調査研究等を積極的に行い、徳島県における自然史・人文科学及び博物館学の中核を担う水準を維持します。	課題調査実施状況 個別調査研究の実施状況			
2-2 調査研究成果の公表	研究報告の出版のほか、学術論文、著述、学会発表等により調査研究成果を公表するとともに、展示や普及教育活動を通じて成果の活用を図ります。	学術論文数	すべての論文および報告をここに編入し、そのうち査読付き論文の数を付記している。	25本/年(査読付き5)	指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
		図書・雑誌等の一般著述		40本/年	目標値は本および雑誌などでの一般向け解説。指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
		学会・研究会での発表	各種学会や研究会でのオーラル、ポスターセッション等の講演の合計。	25回/年	
2-3 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会等との連携による共同研究等を積極的に進めます。	共同研究プロジェクト数	大学等、職業的研究者との共同研究数。	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない。科研費の研究分担はここに含める。
2-4 県民参画型調査研究の推進	調査研究活動にも県民が参画できるよう、県民参画型調査等のプロジェクトを企画します。	県民参画型調査の実績	一般市民(アマチュア研究者、コレクター等含む)との共同研究。	2件/年	とくに不特定多数を相手するものだけをカウントしている。
2-5 外部資金の獲得による研究活動の推進	科学研究費補助金や民間の研究助成金等の外部資金を獲得し、研究活動の推進とレベルアップを図ります。	科研費申請・採択数	文部科学省・独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金。	申請6・採択1件/年	種目等は問わない。今回より、学芸員の人数の減少(15→13)に伴って、指標の目標値(7→6)を変更した。
		民間研究助成金獲得状況			藤原ナチュラリヒストリー振興財団、日本科学協会「科学研究助成制度」など。

48 中期活動目標と自己点検・評価

3. 展示

実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示し、楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創出します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
3-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数 観覧者のリピーター率 観覧者の満足度 展示改善の実施状況	年間の総観覧者数 アンケート回答者のうち、複数回利用者の占める割合 アンケートで展示の総合評価（5点満点）を4～5点とする回答の占める割合 定期的に展示替えるコーナーは対象外	40,000人/年 70%	過去1年以内の利用有無でとらえるよう指標の再定義が必要か
3-2 多様なテーマの企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数 観覧者の満足度 企画展の検討状況	年間の総観覧者数 アンケートで展示の総合評価（5点満点）を4～5点とする回答の占める割合	15,000人/年 80%	
3-3 収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	企画展のほか、特別陳列、部門展示（人文）、トピックコーナー展示等の多様な展示を行うことにより、収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用を図ります。	特別陳列等の開催回数 企画展示室活用回数	企画展として位置付けられているもの以外の各種の展示の取り組み回数 企画展以外の事業（他機関が主体となった共催の展示を含む）での活用回数	10回（特3・部4・ト3） 企画展以外に1回/年	常設展ロビーにおける資料紹介なども含む。
3-4 館外での展示の促進	移動展、パッケージ展示の貸出等により、館外での展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	移動展等の実施状況 パッケージ展示の貸出数	文化の森外の博物館等における当館を主催者に含む展示の開催件数 他博物館等への貸出用展示メニューの利用件数。該当する展示が当館を主催者に含む場合は、移動展と見なす	1回/年 1件/年	
3-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施回数		
3-6 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	開館20周年（平成22年）での常設展のリニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

4. 普及教育

収蔵資料や学芸員の能力を活かし、自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、県民の生涯学習を支援します。また、学校教育を積極的に支援します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
4-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数 普及行事参加者数 参加者の満足度 アウトリーチ活動数	事後アンケートにおける満足回答者の割合 館外での普及行事(展示を除く)	70回/年 3,000人/年 満足した者の割合80% 3回/年	
4-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	学校教育支援事業件数 教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	出前授業15件/年 資料貸出15件/年 館での授業 教員研修 職場体験 遠足 80%	18年度より、その他の項目を館での授業、教員研修、職場体験、遠足の4項目に分けて記すことにした。
4-3 ガイドブックの出版等の促進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況 普及記事の執筆数		1冊/年 20件/年	
4-4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数 会員の継続率 友の会行事実施回数 常設展・企画展観覧者率	友の会（個人・家族）の会員総数 当該年度会員に占める前年度会員の割合 観覧者として入館した会員の割合	500人/年 前年度会員の70% 10回 50%	

5. シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
5-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	300件/年	
5-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数 講演会等の受講者数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数	15件/年	小中高への出前授業は「4. 普及教育」に記載
5-3 自治体等の政策課題への提言	各種検討委員会委員等として、自然環境保全や文化財保護等に関する自治体等の政策課題への提言を行います。	委員等受託数	自治体・大学などの各種委員会委員の受託数（学会・博物館関連団体の委員等を除く）	15件/年	
5-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数 博物館実習生受入人数 学生・院生指導人数		3件/年 20人/年	
5-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		今年度新たに指標を設けた
5-6 民間団体等への専門知識の提供	博物館が蓄積した専門知識を幅広く活かすため、各種民間機関・団体等との連携を進めます。	各種機関・団体等との連携の状況			
5-7 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携強化のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業などの実施回数		今年度新たに指標を設けた

6. 情報の発信と公開

博物館の催し物案内だけでなく、博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
6-1 積極的な資料提供の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数 マスコミ取材報道件数	当該年度にマスコミに対して資料提供を行った数 当該年度に新たに新聞が取材し、報道した数	30件/年	
6-2 様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓、マスコミ出演や新聞・雑誌への寄稿を行うなど、様々なメディアを活用して広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況 マスコミ出演等件数 Eメールサービス登録件数	当該年度に新たに開拓した広報手段 当該年度に学芸員がマスコミに出演した数 当該年度末時点のEメールサービスの登録件数	15件/年 250人/年	
6-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HPアクセス数 新規コンテンツ数 内容の更新頻度	当該年度のトップページへのアクセス総数 当該年度に新たに作られたページの数 当該年度に内容が更新された回数	32,000件/年 30ページ/年 月3回以上	

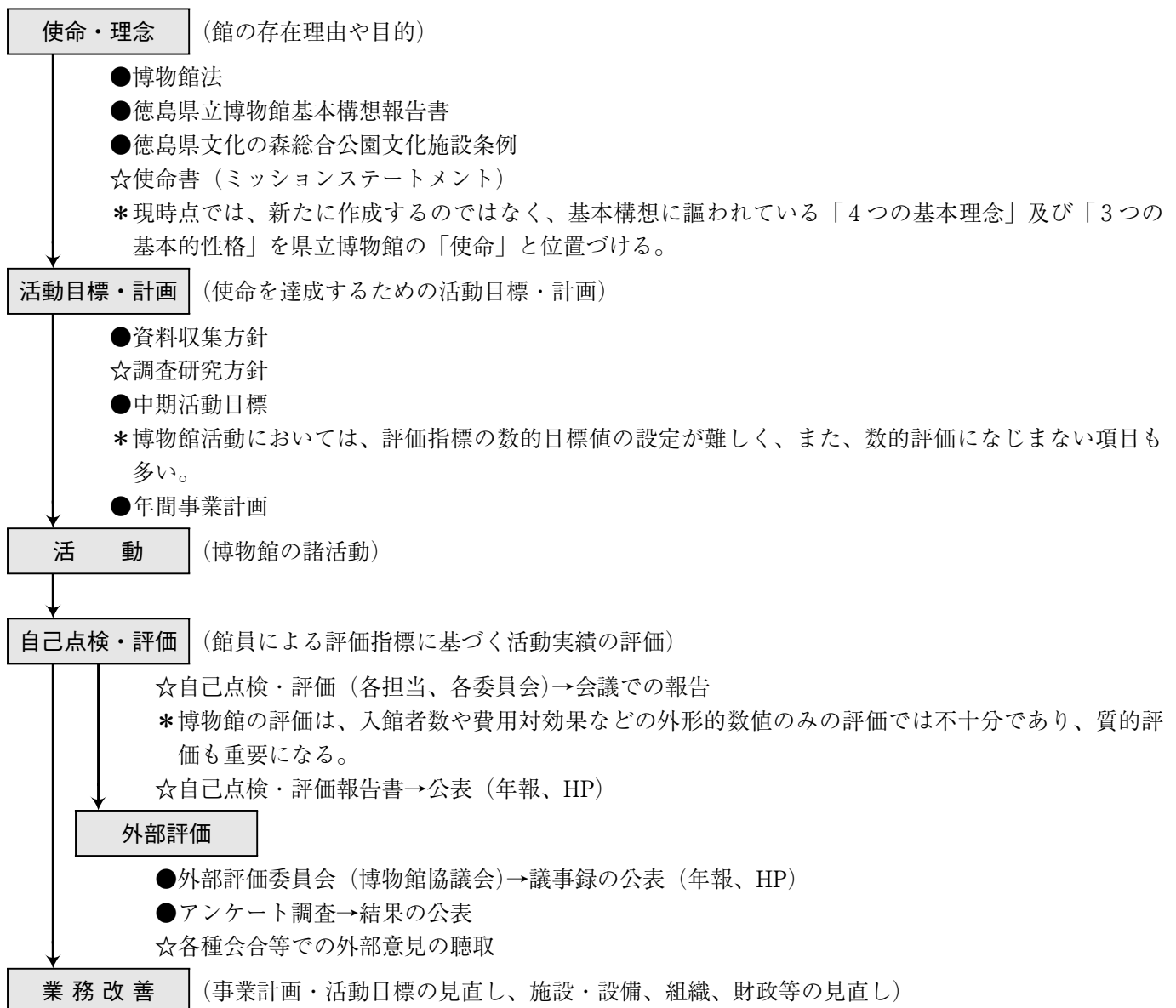
7. マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について、NPO 法人設立も含めて検討します。	ボランティア導入事業数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況			

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備考
7-4 設置者による理解の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。	博物館予算の状況			
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理マニュアルの整備状況			
7-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
7-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

「博物館の評価と改善」の手順



2. 20年度実績と自己点検・評価

(1) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
1-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H20年度末で50万点	471,746	478,394	481,981
		対前年度増加点数	9,030点/年	3,452	6,648	3,587
		対前年度増加率	102.0%	100.7%	101.4%	100.7%
		新規寄贈件数	80件/年	87	86	76
		受入図書冊数 (雑誌類以外)	400冊/年	116	145	110
1-2	寄託資料の受け入れ促進	総寄託件数		66	62	62
		新規寄託件数	10件/年	1	5	1
1-3	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録点数		225,547	235,419	239,444
		収蔵資料DB登録率	H20年度までに50%	47.80%	49.21%	49.68%
1-4	収蔵資料の活用の促進	資料特別利用件数	50件/年	67	71	85
1-5	資料の適切な保管	収蔵庫等の点検回数				
1-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室空調改善の検討状況				
1-7	収蔵スペース確保の検討	収蔵スペース確保の検討状況				

●自己点検・評価

< 1 - 1 >

- ・平成20年度における資料点数は、前年度に比べて3,587点増加したが、増加点数の目標値9,030点を大きく下回った。資料点数の目標値は、平成20年度までに50万点というものであったが、今年度は約48万2千点であり、目標より約1万8千点少なかった。資料点数の経年変化を見ると、平成12年度以前とそれよりあとの年度とで、増加率に明らかな差が見られる。すなわち、平成12年度以前は毎年約19,900点増加していたのに対し、平成13年度以降は毎年5,800点の増加に過ぎなかった（それぞれの期間における単回帰係数の値による）。後者の傾向が続くとすると、目標達成は平成23年頃となると予想される。
- ・寄贈資料件数は、目標値を4件下回った。これをもって直ちに減少傾向にあるとは言えないが、これは平成15年以来で最も低い数値である。
- ・受入図書冊数（購入図書）は、目標値を290冊下回り、前年度に比べても35冊少なかった。これは予算額に依存しているため、予算額が縮小している中では、今後とも目標達成は困難である。当館における図書購入は分野ごとの専門図書が多く、研究の進展に伴い常に最新の図書を揃えておく必要があるが、このような状況下では困難であり、結局、学芸員個人の負担による購入に頼らざるを得ない状態となっている。文献も博物館資料であるという観点からは、中～長期的には大きな損失になると思われる。

< 1 - 2 >

- ・総寄託件数は前年度を同じ62件で、ほぼ平年並みであった。
- ・新規寄託件数は1件のみで、目標値を9件下回った。平成15年度には12件あったものの、その後は1～5件と低調に推移している。

< 1 - 3 >

- ・DB登録資料点数は、ほぼ目標値どおりで、前年度とほぼ同率であった（対前年比プラス0.47ポイント）。平成16年度の40.0%から上昇傾向にあったが、資料整理に係わる臨時職員が減少していることなどから、今後は上げ止まりとなる可能性がある。

< 1 - 4 >

・資料特別利用件数は目標値を35件上回り、前年度に比べ14件多かった(学校への貸出を除く)。平成15年度以降、おおむね単調に増加してきており、今年度の利用件数は平成15年度のその2.1倍に相当する。資料の利用は順調に促進されつつあると考えられる。

< 1 - 5 >

・収蔵庫等の点検は、収蔵庫や展示室を利用したときに日常的に行っている。
 ・常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫などの侵入を防ぐことができない。実際、平成18~20年度と連続して害虫の発生が確認されたため、発生源の資料を特定し、それらの資料の燻蒸を行った(p. 7 参照)。

< 1 - 6 >

・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。さらに近年は省エネルギー化のため、空調の運転時間が減少している。湿度の高い時期にはカビの発生が懸念される。
 ・常設展示室の構造的・設備的な問題であるので、現時点では抜本的な対策およびその検討はなされていない。

< 1 - 7 >

・不定形で大型の資料の多い民俗分野では、すでに収蔵スペースがなく、考古収蔵庫の一部を借用している状況である。
 ・民俗分野以外でも、収蔵スペースに余裕がなくなりつつあることから、収納方法を工夫するなどして対応している。
 ・昨年度時点では、鳥居記念館博物館の文化の森総合公園三館棟への移転に伴い、収蔵庫をどうするかが課題となっていたが、今年度、保存処理室1が収蔵庫に改修され、平成21年度には資料が搬入されることになっている。

●第1期中期活動目標に係わる総括

・この5年間では、資料の活用の促進について進展が見られたのに対し、博物館機能の根幹である資料の収集状況は悪化し、目標を達成できなかった。原因としては、平成17年度以降における資料購入の停止と受入資料の整理・登録作業の遅延が大きい。
 ・資料購入の停止は、資料購入予算の大幅な減額に伴うもので、その影響は資料購入に大きく依存する美術工芸や歴史、地学などの分野で大きい。現在の財政状況では、ここ数年以内に購入状況が改善される見込みはない。
 ・資料の収集は、寄贈や館員による直接収集など購入以外の手段によってもなされている。例えば、資料の収集では購入以外で大きな割合を占める寄贈件数は、平成4年度以降59~111件の間を上下しており(平均82.1件)、大きな変化はない。資料の購入ができない状況では、これらによる収集はより重要となる。
 ・しかし、収集した資料は適切に整理・保管されてこそ、継承と活用も可能となるが、それもここ数年で資料整理を担当する職員および予算の削減により困難になりつつある。このような状況下では、たとえ資料を収集したとしても、処理しきれずに未整理のまま蓄積されることになる。未整理資料の蓄積は、収蔵スペースの圧迫にもつながる。従って、今後は資料収集そのものを処理可能なレベルまで大きく抑制せざるを得なくなるだろう。それに伴い、資料収集方針の見直しが必要になるかもしれない。

(2) 調査研究

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
2-1	調査研究活動の強化	課題調査実施状況		4件 (外部との共同2)	3件 (外部との共同2)	2件 (外部との共同1)
		個別調査研究の実施状況				
2-2	調査研究成果の公表	学術論文数	25本/年 (査読付き5)	22本 (査読付き5)	26本 (査読付き8)	30本 (査読付き5)
		図書・雑誌等での一般著述	40本/年	50本 (普及記事含む)	40本 (普及記事含む)	
		学会・研究会での発表	25回/年	17回	28回	16回

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
2-3	外部研究機関等との連携の推進	共同研究プロジェクト数	10件/年	17件 (課題調査以外)	14件 (課題調査以外)	13件 (課題調査以外)
2-4	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	2件/年	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査	八万町の昔を探ろう、アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査 タンポポ分布調査
2-5	外部資金の獲得による研究活動の推進	科研費申請・採択数	申請6・採択1件/年	申請3・採択0 (継続1)	申請2・採択0 (継続1)	申請3・採択1
		民間研究助成金獲得状況		2件	0件	0件

●自己点検・評価

< 2 - 1 >

- ・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果をえた。

< 2 - 2 >

- ・今年度は、ほとんどの学芸員が何らかの形で学術論文を執筆した。論文数も昨年度と比較して増加した。一方、学会・研究会での発表は16件と少なかった。研究内容をみると各専門分野に関連した研究が多い一方、博物館学に関連したものが少ない。今後は博物館学的な研究が増えてもよいように思われる。
- ・図書・雑誌等での一般著述は、普及教育事業での普及記事と内容が同一なので、今回より調査研究事業の項目から削除した。

< 2 - 3 >

- ・昨年とほぼ同様であった。

< 2 - 4 >

- ・今年度は毎年継続的に行っている2件に加えて、「平成20年度文化庁芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想の推進）「八万町の昔を探ろう」から地域をプロデュースするプロジェクト」を行った。
- ・アマチュア研究者（または研究グループ）との共同研究のうち、とくに不特定多数の県民を巻き込んで行っている研究をカウントしている。特定のアマチュア研究者との継続的な共同研究も多いが、その件数は不明である。

< 2 - 5 >

- ・今年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は1件採択された。民間の研究助成金は申請はなかった。

外部資金の獲得については積極的に取り組む必要があるが、容易ではない。まず申請件数から増やす必要がある。また、研究課題についても、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究的なものなど）を設定するなどの工夫が必要である。

●第1期中期活動目標に係わる総括

- ・調査研究事業・活動全体の可視化を実現し、全体的な傾向が把握できるようになり、学芸員毎に偏りや傾向が見られることが明らかになった。しかし調査研究事業は、各分野や専攻および学芸員の個性により事情や状況が様々であり、成果や目標・指標を一律に示すことは今後も難しいと思われる。
- ・学会・研究会での発表は、平成19年度に一時的に増加したものの、全般的には減少傾向が見られる。以前と比較すると、全体として調査研究活動が低調になっていることを示している可能性がある。学術論文数は、第1期の途中で計数の方法を替えたため、傾向を把握することが難しい。
- ・課題調査および科学研究費補助金の研究題目については、複数分野で同一地域や対象を調べるなど、戦略的なテーマを考える必要がある。
- ・個別調査研究では、各学芸員の研究テーマと実際に行ったこととの混在が見られる。実際に行っている研究を構造的に説明するためにも、各学芸員が行っている大きな研究の方向を示し、それに沿って実際に行った研究題目を示すのが望ましいと思われる。

- ・調査研究成果の内容によっては、マスコミ向けに成果の資料提供を行うことも考えられるが、現状ではほとんど行われていない。研究活動を対外的に直接伝えるよい方法であるため、今後は意識的に取り組む必要がある。
- ・外部資金の獲得は低調である。当館のような小規模な組織の場合、新規獲得は簡単ではないと思われるが、学芸員の自主的な発想に基づく研究を開始または継続するためには、これらの競争的資金や研究助成金の獲得がますます必要になると考えられるため、今後も継続的に取り組む必要がある。また、博物館の特性を生かした課題を設定するなどの工夫も必要である。
- ・各専門分野に関連した研究が多い一方、博物館学に関連したものが少ない。数値目標としてあげるようなことではないが、今後は博物館学的な研究が増えてもよいように思われる。

(3) 展 示

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
3-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	41,475人	40,632人	37,171人
		観覧者のリピーター率		57.5%(7～8月)	49.5%(7～8月)	53.9%(8月)
		観覧者の満足度	70%	76.1%(7～8月)	79.9%(7～8月)	73.4%(8月)
		展示改善の実施状況		2件	1件	2件 (チャレンジコーナー、ロビー)
3-2	多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	15,000人/年	23,285人(3回)+7,200人(特陳)	38,262人(3回)+5,168人(特陳)	21,207人(3回)+7,517人(特陳)
		観覧者の満足度	80%	87.4%(種と実)、71.4%(海人)	80.2%(ミネラルズ)、81.7%(考古速報展)	77.6%(郷土)、93.4%(香り) ※82.5%(空)
		企画展の検討状況		20年度以降の計画の協議	21年度以降の計画の協議	22年度以降の計画の協議
3-3	収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	特別陳列等の開催回数	10回 (特3・部4・ト3)	15回 (特3・部6・ト6)	16回 (特2・部5・ト8・他1)	8回 (特2・部5・ト1)
		企画展示室活用回数	企画展以外に1回/年	1回(特陳)	2回 (国文祭、特陳)	1回(特陳)
3-4	館外での展示の促進	移動展等の実施状況	1回/年	1回(海陽)	5回(移動展=牟岐・阿南・藍住・東かがわ、共催展=徳島城)	4回(移動展=兵庫・東かがわ・美馬・阿南)
		パッケージ展示の貸出数	1件/年	0回	1回(阿波図)	2回 (北島町教委・あいぼーと)
3-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録3+特陳パンフ(鳴教大との共編。経費は鳴教大負担)	企画展図録1+パンフ2	企画展図録1+パンフ1
		展示解説等の実施状況		企画展解説 7回 特陳解説 3回 部門展示解説 7回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱を使った解説 1回 受付案内員による常設展解説 3回 常設展示室活用イベント 2回 (当初計画外分。全体では4回)	企画展解説 6回 特陳解説 1回 部門展示解説 3回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱を使った解説 7回 常設展示室活用イベント 1回 (当初計画外分。全体では3回) セルフガイドの設置	企画展解説 10回 部門展示解説 5回 クイズラリー(第2・4土) 24回 びっくり箱等による解説 3回 常設展示室活用イベント 1回 (当初計画外分。全体では3回) セルフガイドの設置 音声ガイドの開発

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
3-6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査5館（長崎、山梨、九博、科博、国立新美）展示のイメージの再検討着手	先進館調査1館（島根県古代出雲博）基本計画（案）の改訂	先進館調査1館（沖縄県博）リフレッシュ事業の企画

●自己点検・評価

< 3 - 1 >

- ・常設展観覧者数は37,171人で、目標を下回った（前年度比3,461人減）。遠足利用の低迷などが影響したと思われる。
- ・今年度の利用状況調査（8月実施）では、リピーター率は53.9%であった。1年以内の利用経験のある「狭義のリピーター」は40.9%となっている。
- ・展示の改善（部門展示の展示替えを除く）は低調だった。従来から要望の多かった常設展での体験活動の充実のため、「チャレンジコーナー」を設けた。

< 3 - 2 >

- ・企画展観覧者数は21,207人で目標を達成したが、前年度と比べて17,055人減少した。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営に努めるしかないが、専門性の高いテーマの場合、広く関心を引くことができるよう広報や展示内容の工夫が必要である。
- ・観覧者の満足度を調査したのは「郷土の発見」、「香りの世界」の2回。総合的に満足感を示した割合は、前者で77.6%、後者で93.4%であった。後者はとくに、体験活動に重点を置く実験的試みが好評だった。

< 3 - 3 >

- ・特別陳列等の開催回数は8回（そのうち1回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展）で、目標を下回った。これはトピックコーナーを休止したことによる。
- ・20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の展示替えに自然史のテーマを試験的に組み込むことにした。実績としては2回行った（地学、植物各1回）。これに伴い、展示に関する業務全体を見直す趣旨から、トピックコーナーをいったん休止した。

< 3 - 4 >

- ・移動展・パッケージ貸し出しともに、目標を上回った。県外の施設だが、東かがわ市歴史民俗資料館での移動展が定例化してきた。

< 3 - 5 >

- ・展示解説等については、「びっくり箱」の活用など、ミニワークショップが行われ、成果を得ている。年間計画外の常設展活用イベントがボランティアとの協働により行われたほか、セルフガイドの設置も進んだ。企画展でも、展示に親しみながら学べるよう、クイズシートを設置したり、体験活動を行ったりする取り組みが行われた。
- ・常設展に音声ガイドを導入するため、コンテンツを制作した。機器調達の目処が立たないため、現状ではホームページで公開するに止まっている。

< 3 - 6 >

- ・常設展リニューアルの実現は困難であるため、昨年度まとめた基本計画（案）を踏まえて、開館20周年の2010年度に集中的な改善（リフレッシュ）を行うことにし、検討に取り組んだ。

●第1期中期活動目標に係わる総括

- ・目標・指標の設定によって事業・活動を可視化したことで、来館者によりよい展示空間を提供するための取り組みを自覚的に継続することにつながった。その一環として、停滞していた常設展更新に向けての議論を再開し、計画案の改訂とその活用への足がかりを得ることができた。
- ・常設展の改善と活性化が当面の重点課題の一つであったが、展示替え等に力を注いでも観覧者数や満足度には直結せず、成否を計りかねた。また、観覧者数だけでなく、満足度など質的な面からの実績評価を重視したが、表面的な把握にとどまった。目標・指標や評価方法の再検討が必要である。

- ・誘客・広報を中心に普及課及び普及委員会との連携が必要だが、十分ではなく、検討が深まらなかった。また、企画展・特別陳列の計画における経営的・戦略的視点と議論の欠如が目立った。今後、展示以外の諸事業との関連、館の業務としての意識などを重視した取り組みが必要である。

(4) 普及教育

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
4-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	80回	61回（中止5回）	80回（中止1回）	
		普及行事参加者数	3,000人/年	6,143人	5,140人	6,041人	
		参加者の満足度	満足した者の割合80%	86.6%（13行事）	93.6%（15行事）	92.6%（11行事）	
		アウトリーチ活動数	5回/年	移動講座5回	移動講座4回	移動講座4回	
4-2	学校教育支援事業の推進	学校教育支援事業件数	出前授業15件/年	22件	15件	27件	
			資料貸出10件/年	9件	7件	9件	
			館での授業件数	6件	7件	9件	
			教員研修件数	6件	7件	6件	
			職場体験件数	2件	2件	3件	
		遠足件数	117(園)校	107(園)校	97(園)校		
教員・生徒の満足度	80%	8割強	93.3%	92.0%			
4-3	ガイドブックの出版等の促進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	0冊	0冊	
		普及記事の執筆数	20件/年	45件	34件	71件	
4-4	友の会活動の充実と活性化	友の会 会員数	(個人)	400人/年	115人	115人	113人
			(家族)		81組 316人	74組 289人	76組 279人
		会員の 継続率	(個人)	前年度会員の70%	65%	69%	65%
			(家族)		68%	74%	74%
		友の会行事実施回数 (参加者数)	6回	9回(268人)	9回(226人)	11回(393人)	
		展示利用率 (観覧者として入館した会員の割合)	(個人)	50%	50%	43%	37%
(家族)			58%	64%	58%		
のべ利用者数 (観覧者として入館した会員の人数)	(個人)	会員数	192人	121人	142人		
	(家族)		290人	278人	202人		

●自己点検・評価

< 4 - 1 >

- ・普及行事の実施回数は、前年の61回（中止が5回あったため）から80回（中止が1回あった）に増えたことで、参加者数が901人増加した。
- ・普及行事参加者数6,041人のうち、こどもの日および文化の日フェスティバルとボランティアが中心になって行った博物館Vキングでは、それぞれ810人、839人、2133人と参加者数が多く、年々増加傾向にある。特に、博物館Vキングはボランティアスタッフと一緒に作る内容で好評を博し、約800人増となった。これは、他館との行事が重なった影響も考えられる。
- ・普及行事への参加者の満足度は、11行事で行ったアンケート結果からは92.6%と好評であった。

〈4 - 2〉

- ・出前授業数は前年より12件増え、27件（25校）であった。その内訳は、徳島市内の小学校が15件（13校）と過半数を占めている。その他の学校については、これまでよりも遠方の小学校が増えてきており、県内への広がりを感じられる。出前授業の内容で多かったのは、人文分野においては「火おこし」や「昔の暮らし」に関するもの、自然分野においては「昆虫」や「水生生物」また「地層」に関するものである。
- ・出前授業については、教員への事後アンケートを実施している。それによると、「総合評価」では92.0%の高評価を得ているが、「事前の打ち合わせに対する評価」は82.7%と10%程度の開きが出ていた。また、「ねらいの達成度」も88%と他の項目より少し低かった。これは、15人回答のうち、13人が初めてであったことを考えると、学芸員への評価としてではなく、教員自身の反省を含めた評価として回答したのではないかと推測される面があった。それが、「事前の打ち合わせに対する評価」や「ねらいの達成度」の数字として現れているのではないだろうか。出前授業の依頼が増えつつあるなかで、出前授業が初めての教員に対する事前の打ち合わせを十分に行い、教員のめざすねらいや授業の意図と学芸員の考えを互いに理解して授業実践に臨めるようにしていく必要がある。
- ・資料貸し出し等、事業件数が増えていないのは、博物館が学校教育支援事業を実施していることを知らない教職員が多いと推察される。そこで、学校向けのパンフレットを年度当初に各学校の教員全員に配布した。また、資料貸し出しが増えないのは、資料持ち出しの出前授業が増えていることに一因があるかもしれない。
- ・「館での授業」「職場体験」の実績は、前年度よりやや増加したが、「遠足」については雨天の場合のみ来館するという学校が多く、1学期の来館が例年よりかなり減少し、全体としても減少となった。

〈4 - 3〉

- ・新聞・雑誌の普及記事執筆については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を働きかけていきたい。また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、年度末までに39件となっている。

〈4 - 4〉

- ・友の会では、この3年間で会員数が431人から404人へ、そして392人へと減少し、継続率もやや減少してきている。
- ・会員が自主的に行事を立案・企画し、継続的に実施できているものもある。
- ・友の会会員の評価指標を個人と家族に分けて表すようにした。また、「常設・企画展観覧者率」はわかりにくいいため、「展示利用率」と「のべ利用者数」で表すようにした。

●第1期中期活動目標に係わる総括

- ・こどもの日および文化の日フェスティバルと博物館Vキングでは、年々参加者数が増加傾向にあり、これが普及行事全体の参加者数を押し上げている。これらの行事は普及委員会で広報範囲を検討し、小学校だけでなく、徳島市内の保育園や近郊の幼稚園などへチラシ配布を広げるなどしてきた結果があらわれてきたものと考えられる。それだけに広報については、これまで以上に、より効果的で戦略的な方法や手段を講じていく必要がある。
- ・学校教育支援事業については、学校の教員向けパンフレットを改訂し、県内学校教員すべてに配布したこともあって、だんだんと出前授業の要請が増えてきている。地域的には徳島市内が多いものの、しだいに郡部など県下一円に広がりつつある。内容的には、総合的な学習の時間から社会科や理科といった教科学習での要請が増えてきており、学校現場の時代的ニーズと考えられる。この流れのなかで、学校教育との連携をより深めていくためには、学芸員自身も授業力を高めていくことが求められるであろうし、そのためにも事後アンケートによる評価を活かしていかなければならないと考える。
- ・予算の減少に伴い、ガイドブックの出版が困難になってきている状況である。その中であって、普及記事の執筆数が増えてきていることについては、今後も継続したい。
- ・友の会会員数は、年々減少傾向にある。会員にも高齢の方が多く、家族会員や子どもの数が少なくなっている現状である。このことをふまえ、友の会の在り方や行事運営について今後どういう方向にしていけるかが課題である。

(5) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
5-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	303	302	364
5-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数	15件/年	18	26	22
		講演会等受講者数		未計数		
5-3	自治体等の政策課題への提言	委員等受諾数	15件/年	34	29	31
5-4	大学教育への寄与	非常勤講師受諾数	3件/年	2	7	5
		博物館実習生受入人数	20人/年	17 (7大学)	21 (8大学)	12
		学生・院生指導人数		1	1	0
5-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	14	13
		学会等役員受託数		5	4	2
		学会等事務局受託数		4	3	4
5-6	民間団体等への専門知識の提供	各種機関・団体等との連携の状況				
5-7	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		6	6	4
		博物館関連団体加入数		5	5	5
		連携事業の実施数		7	9	7
					移動展4回、共催展1回、四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部講演会講師派遣、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査	移動展4回、徳島県博物館協議会講演会、研修会、先進地博物館施設調査

●自己点検・評価

〈5-1〉

・レファレンス件数は昨年度に比べて62件増加し、目標値300件を大きく上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、今年度は地学がもっとも多い91件で、昨年度より26件増加した。次いで、歴史60件、動物(昆虫)60件、動物(脊椎)53件であった。以上の4分野で全体の72%を占めていた(p.33参照)。

〈5-2〉

・今年度の講師派遣は、22件で、昨年度に比べて4件減少したが、目標値の15件を7件上回った。ただし、昨年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が14件、全体の64%を占めた。
・派遣先の受講者数は現在のところ計数できていない。講演終了後に派遣先に問い合わせるなどの記録方法を検討したい。

〈5-3〉

・各種の委員会などの委員等の受諾数は昨年度より2件増加し、目標値の15件を16件上回っている。これらのうち24件(77%)は動物・植物分野における自然環境の評価に係わるもので占められており、県や国における公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

〈5-4〉

・今年度の大学における非常勤講師の受諾数は昨年度より2件減少し、目標値の3件を2件上回った。

- ・今年度の博物館実習生の受入人数は12人で、昨年度に比べて9人減少し、目標値の20人を8人下回った。
- ・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、受け入れはなかった。

< 5 - 5 >

- ・今年度の学会や研究会の当館における開催数は昨年度より1件減少した。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブ（旧称：植物談話会）が含まれている。目標値は定めていない。
- ・学会等役員受託数は昨年度より2件減少した。目標値は定めていない。
- ・学会等の事務局受託数は昨年より1件増加した。目標値は定めていない。

< 5 - 7 >

- ・博物館関連団体の委員等受託数は昨年度より2件減少した。目標値は定めていない。
- ・博物館関連団体加入数は5件で、ここ5年間は内容に変化がない。これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
- ・他館等との連携事業数は、昨年度より2件減少した。目標値は定めていない。移動展4回のほか、徳島県博物館協議会講演会および研修会の実施、先進地博物館施設調査のための見学会も行った。

●第1期中期活動目標に係わる総括

- ・レファレンスへの対応は博物館の大事な機能の1つであるが、これに関しては件数、内容ともにこのままでいいと思われる。積極的な広報はしにくい内容であるが、多くの分野への対応ができることを県民の方々にもっと知ってもらえるような努力は必要である。
- ・講師派遣や講演会などは要請される分野に差がある内容であり、数回だけでの判断は難しいが、ある程度目標は達成したと考えられる。
- ・国、県などの委員会の委員としての提言などでの協力は、特定分野に偏る傾向が強いが、目標としては達成している。しかしながら、行政組織の一員としての立場もあり、県の委員としての活動は難しい一面があることも明らかになった。委員の受諾数が目標ではないが、協力の体制作りは検討する必要があると思われる。
- ・学会などでの問題は特になかった。
- ・博物館の連携などに関しては、市町村合併などによる組織の改編により、資料館などの休館などもみられ、連携強化も難しくなりつつある。
- ・社会情勢として厳しい時代ではあるが、シンクタンクとしての社会貢献は、個人的なレファレンスや各種外部団体との連携強化をめざして、今後とも目標としては高く設定して行くべきであると考えます。

(6) 情報の発信と公開

●20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
6-1	積極的な資料提供の推進	資料提供件数	30件/年	31件	28件	27件
		マスコミ取材報道件数		59件	86件	101件
6-2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		新規雑誌への催し物案内の提供	ちらしやポスター配布場所の新規開拓	ちらしやポスター配布場所の新規開拓
		マスコミ出演等件数	15件/年	17件	15件	10件
		Eメールサービス登録件数	250人/年	260人	265人	286人
6-3	インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	49,300件	47,500件	49,300件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	180ページ/年	507ページ/年	371ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	3.3回/月 (39回/年)	3.6回/月 (43回/年)	2回/月 (24回/年)

●自己点検・評価

< 6 - 1 >

- ・資料提供件数は27件と目標の30件／年に達しておらず、前年より減少している。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるので、今後とも積極的に続けていく必要がある。
- ・マスコミ取材・報道件数については、新聞のみの数であるが101件となっており、活発な取材や報道が行われていることが伺える。

< 6 - 2 >

- ・広報手段の新規開拓としては、近隣地域である兵庫県淡路市と香川県東部の小中学校にポスターチラシの配布を新たに行った。限られた予算内で効果的な広報媒体の開発の改善努力を今後とも続けていくことが望まれる。
- ・マスコミ出演等件数は前年より減少し、目標値を下回った。
- ・電子メールサービス登録件数は目標値を上回った。

< 6 - 3 >

- ・インターネットによる情報発信ではホームページのアクセス数や新規コンテンツ数では目標値に達した。一方、内容の更新頻度は目標値を下回った。ホームページについては、アクセスの解析から、自由研究などの調べ物として使われていることが明らかになった。また、新聞やテレビなどのマスコミ報道された内容について検索エンジン経由でアクセスが増加する場合がある。ユーザの動向・関心に対応したホームページの作成が必要である。

●第1期中期活動目標に係わる総括

- ・積極的な資料提供の推進においては資料提供件数が目標値をやや下回る傾向がある。研究活動によって得られた新知見を積極的に資料提供するなどの新しい試みが必要である。
- ・様々なメディアの活用による広報活動の強化については、毎年新たに広報手段を開拓しているが、それらは出尽くした感があり、新規開拓は今後難しくなるだろう。むしろ、広報全体の戦略を見直すことにより、よりきめ細やかな広報活動を行うなどの検討が必要である。
- ・インターネットによる情報発信の推進は目標値を遙かに超えており、良い状況である。今後は先に示したようなユーザの動向・関心に対応したホームページの作成や、不足している分野のコンテンツの充実などが課題として上げられる。

(7) マネージメント

●中期活動目標および20年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況				
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合		「種と実」11.3%、「海人の見た世界」19.8%	「ミネラルズ」7.0%、「発掘された日本列島2007」12.4%	「郷土の発見」6.0%、「香りの世界」7.5%
7-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業数		2回 (2/12、3/21)	1回 (2/11)	3回 (8/9、8/10、2/11)
		ボランティア活動参加者数		18人	16人	12人+9人 (イベント開催日の参加)
		運営支援組織の検討状況			文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の実施	文化庁芸術拠点形成事業「『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクト」の実施

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	18年度実績	19年度実績	20年度実績
7-4	設置者による理解の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 65,526千円	2月補正後 47,695千円	2月補正後 43,322千円
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練 6月、12月	自衛消防隊総合訓練 6月、12月；文化 財防火デー 1月 28日	自衛消防隊総合訓練 6月、12月
		危機管理マニュアルの整備状況				
7-6	職員の意識改革と資質の向上					
7-7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況				見直しに着手
		自己点検評価の状況		17年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	18年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	19年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
		外部評価の状況		博物館協議会 8月8日	博物館協議会 9月21日	博物館協議会 9月26日

●自己点検・評価

< 7 - 1 >

・20年度も特段の取り組みは行われなかった。

< 7 - 2 >

・県外利用者の割合は、2つの企画展で調査した。結果は表の通り。

< 7 - 3 >

・17年度に始めた公募ボランティアを、20年度も募り、ボランティア主体の企画イベントを2月11日に実施した。また、8月9～10日に徳島大学で行われた「科学体験フェスティバル in 徳島」にボランティアが中心になって参加し、手作り影絵の上演を行った。のべ21名が準備及び当日の運営に参加した。参加者も増えつつあり、博物館の行事として定着しつつある。

< 7 - 4 >

・厳しい財政状況を反映し、館運営予算は19年度より約3,500千円減少した。前年と同様に企画展開催経費の削減や、需用費などの執行保留が主なものである。
・これまで博物館資料の購入に充ててきた美術品等取得基金が16年度末で廃止された。それに伴い、17年度から博物館費（一般会計予算）に13,000千円の資料購入費が計上されたが、19年度、20年度は100万円となった。さらにこの予算も執行保留の資料購入はできず、2月補正予算で全額減額された。

< 7 - 5 >

・年2回の防災訓練は、3館合同で実施された。
・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

< 7 - 6、7 - 7 >

・16年9月に策定した「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、19年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、9月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
・中期活動目標を、活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切であり、すでに現状での目標見直し等も行っている。

●第1期中期活動目標に係わる総括

・この活動目標自体がかなり数値化しにくい性格のものであり、博物館の運営全体の大きな目標ととらえている。
・施設の改善などに関しては、自前のできる案内パネルなどの変更や、サインなどについては可能であるが、ユニ

バーサルデザインなどで要求されるような展示室内の構造まで変更するような内容には踏み込めなかった。しかし、いくつかの考え方は、新たな鳥居記念博物館の展示室の構造などに反映できたと考える。

- ・ 県全体の財政状況などの変化により、予算については館の努力だけでは不可能な段階まで至っていると考えるが、館員の努力で可能なうちは常に前向きに考えるべきである。ただし資料の購入については厳しい状況となっており、特に人文系資料については財政当局への働きかけを続けていく必要がある。
- ・ 防災関係は今後、室内や収蔵庫の耐震についても検討すべきである。危機管理マニュアルは県の策定したものに準拠している段階である。
- ・ 比較的大きなとらえ方をしている目標ではあるが、マネジメントについてはあまり数値化されない目標ととらえ、職員のモチベーションを高める方向へ前進していくようにしたい。

Ⅸ 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生土曜、日曜、祝日及び長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために、13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものである。

●平成20年度 博物館常設展観覧者数 (単位：人)

月	開館日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者総数					
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計	学校教育						個人					無料観覧者計				
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大人			高校・大学生	小・中学生		幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校		計	小学生	中学生			高校生	その他		
								高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校	人数								校	人数
4月	26	575	31	20	13	0	0	89	23	112	0	1	752	1	11	0	0	1	111	1	47	3	169	624	54	43	732	1,622	2,374
5月	27	463	75	4	101	1	0	56	10	66	0	0	710	5	135	18	1,249	2	140	0	0	25	1,524	1,318	74	64	2,925	5,905	6,615
6月	25	597	37	0	31	0	0	95	12	107	0	0	772	1	8	2	92	0	0	0	0	3	100	398	39	41	352	930	1,702
7月	27	696	17	1	27	0	0	107	26	133	0	0	874	1	11	1	12	0	0	0	0	2	23	912	89	34	721	1,779	2,653
8月	27	1,593	50	0	124	2	0	242	56	298	0	0	2,067	2	72	1	62	1	14	1	7	5	155	1,590	177	116	956	2,994	5,061
9月	25	497	47	7	27	31	0	78	9	87	0	0	696	0	0	2	140	0	0	0	0	2	140	546	31	17	749	1,483	2,179
10月	27	442	18	2	26	0	0	132	13	145	0	1	634	7	384	10	608	1	264	0	0	18	1,256	529	22	30	416	2,253	2,887
11月	26	302	11	1	31	0	0	54	8	62	0	0	407	3	166	13	736	0	0	0	0	16	902	1,358	50	97	2,503	4,910	5,317
12月	23	287	12	2	17	2	0	57	1	58	0	0	378	0	0	2	148	0	0	0	0	2	148	285	18	15	323	789	1,167
1月	23	342	23	3	19	0	0	75	3	78	0	0	465	3	202	3	68	1	14	0	0	7	284	326	20	14	445	1,089	1,554
2月	24	443	24	5	28	0	0	67	6	73	0	0	573	3	57	0	0	0	0	0	0	3	57	740	48	24	1,966	2,835	3,408
3月	26	548	41	9	30	1	0	70	10	80	0	0	709	7	318	4	126	0	0	0	0	11	444	533	44	32	492	1,545	2,254
計	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	9,159	666	527	12,580	28,134	37,171

●常設展観覧者数累計(平成2年度～平成20年度) (単位：人)

年	開館日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者総数				
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計	学校教育						土・日・祝	その他	無料観覧者計						
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大人			高校・大学生	小・中学生		幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校				計					
								高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校						人数	校	人数	
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722				55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282				202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861				114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480	
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147	
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373	
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121	
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720	
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891	
11	307	8,778	642	3,585	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888	
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132	
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038	
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349	
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	10,264	28,484	39,797	
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	11,705	31,705	44,669	
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	9,157	25,372	35,637	
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	11,481	29,900	41,475	
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	13,497	30,320	40,632	
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	12,580	28,134	37,171	
計	5,599	323,498	24,279	99,287	28,916	2,094	4,970	50,027	4,801	54,828	166	211	538,249	446	21,076	1,470	126,151	284	37,082	136	16,200	2,336	200,509	95,073	183,216	478,798	1,017,047	

●平成20年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数							
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計						
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校生		小中学生	幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生			その他					
																										園人数	校人数	校人数	校人数	校人数
第1回企画展「郷土の発見」	H20.4.26 H20.5.25	26	292	35	0	3	0	0	149	9	158	0	0	488	1	4	9	342	1	124	0	0	11	470	709	42	28	1,168	2,417	2,905
第2回企画展「動物大集合」	H20.7.19 H20.8.31	38	4,454	106	0	119	1	0	441	120	561	0	0	5,241	2	72	1	62	1	14	1	7	5	155	3,850	323	189	2,894	7,411	12,652
第3回企画展「香りの世界」	H20.10.18 H20.11.24	33	1,630	68	6	63	1	0	436	46	482	3	0	2,253	6	309	14	832	1	264	0	0	21	1,405	971	94	132	795	3,397	5,650
合計		97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	9	385	24	1,236	3	402	1	7	37	2,030	5,530	459	349	4,857	13,225	21,207

●企画展観覧者数累計(平成3～20年度)

(単位：人)

企画展名	開催日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校生				小中学生
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	5,466	10,945
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	15,268	21,481
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	18,500	32,810
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	10,344	18,444
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	13,717	23,285
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	22,327	38,263
平成20年度	97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	13,225	21,207
総合計	1,879	144,971	8,960	32,839	2,798	343	6,924	22,738	1,549	24,287	64	54	221,240	172,342	393,582

●特別陳列観覧者数累計(平成4～20年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回館蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代—細川・三好氏と阿波—	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鉱山の記録—在日コリアンの労働史—	平14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵誕生100年記念巡回展自由の天地を求めて—知里幸恵「アイヌ神謡曲集」への道—	平15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美—赤羽刀とその他の館蔵品—	平16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.2.18～3.19	26	3,848
旅と祈りの道—阿波の巡礼—	平19.1.19～3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平21.1.27～3.15	42	7,517
合計		488	101,310

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展—江戸から昭和まで—(藍住町歴史館藍の館)	平16.12.2～12.27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町歴史民俗資料館)	平18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物(海陽町立博物館)	平18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平19.6.5～7.22	42	197
中世阿波の板碑(藍の館)	平19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平20.5.3～5.5	3	4,339
和泉層群の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平20.9.25～11.9	41	956
合計		383	21,756

●博物館利用者総数年度別一覧

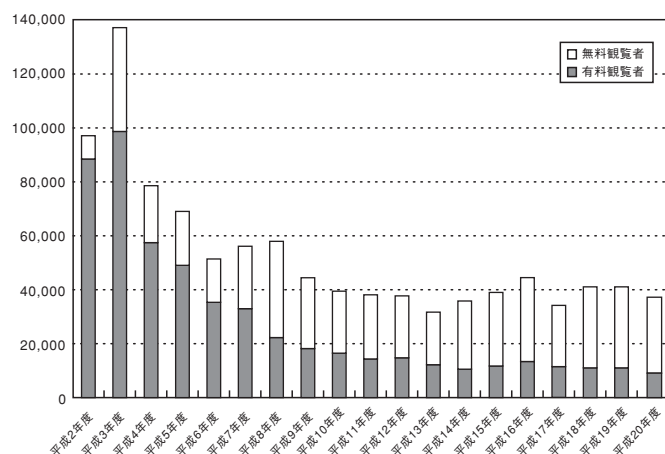
	常設展		常設展 観覧者合計	企画展 観覧者	特別陳列 観覧者	移動展	普及行事 参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2年度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3年度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4年度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5年度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6年度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7年度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8年度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9年度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10年度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11年度	14,870	23,018	38,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12年度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13年度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14年度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15年度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,628	81,818
16年度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17年度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18年度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19年度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20年度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
累計	538,249	478,798	1,017,047	393,582	101,310	21,756	64,436	112,099	1,710,230

※特別陳列は、自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数(12～14年度は人権啓発展のみ)。

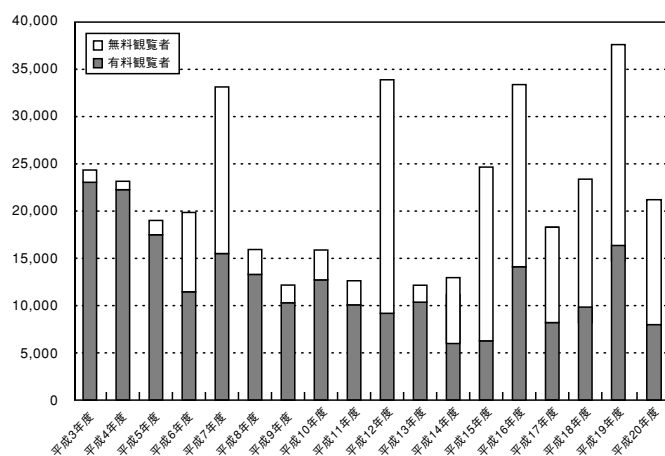
●人権啓発展等観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
合計		108	15,638

●常設展観覧者数(平成2～20年度)



●企画展観覧者数(平成3年～20年度)



●その他(啓発展を除く共催事業)観覧者数(平成15年度～)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快的森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光—守護町勝瑞から城下町徳島へ—」(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
合計		122	96,461

X 施設の概要

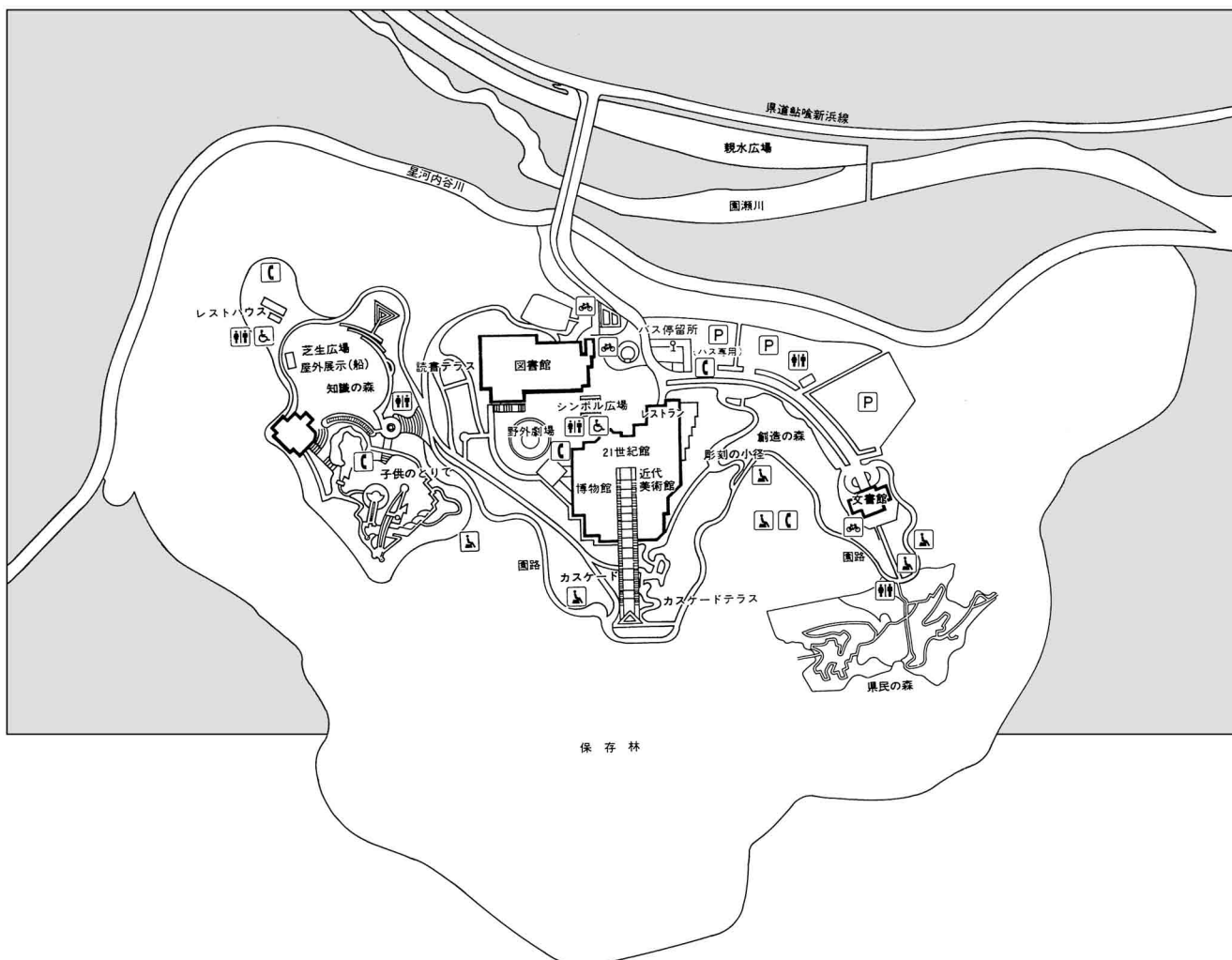
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363m²（3館棟）
- 延床面積 22,382m²（3館合計－積層部分を含めると23,814m²）
8,133m²（博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階

- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
- 建築 ----- 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
- 電気 ----- 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
- 空調 ----- 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
- 管 ----- 朝日工業社・大成設備 共同企業体
- エレベータ ----- (株)東芝
- 家具 ----- 富士ファニチア(株)
- 移動展示ケース ----- (株)三井
- 展示 ----- (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
鳥居博収蔵庫	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

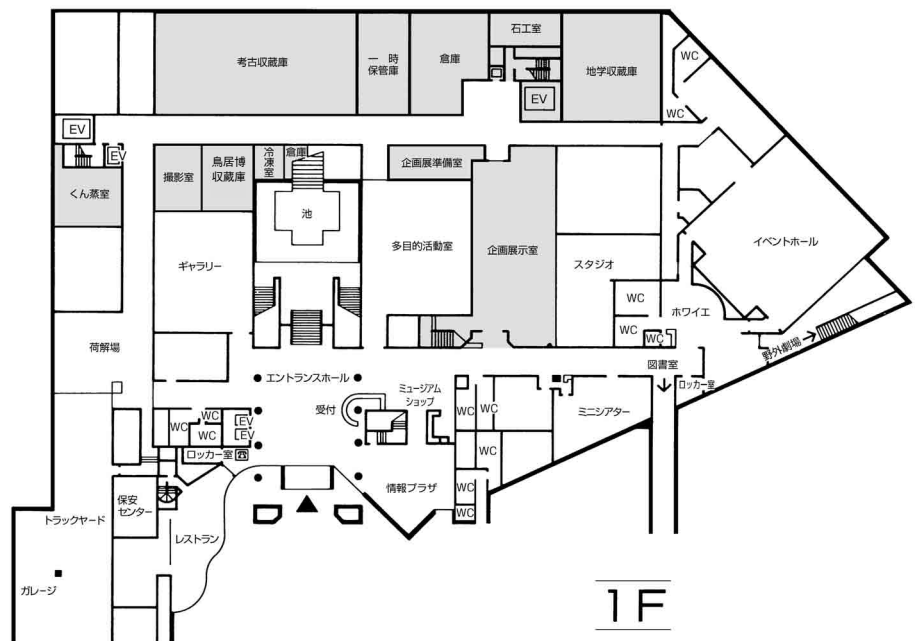
3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

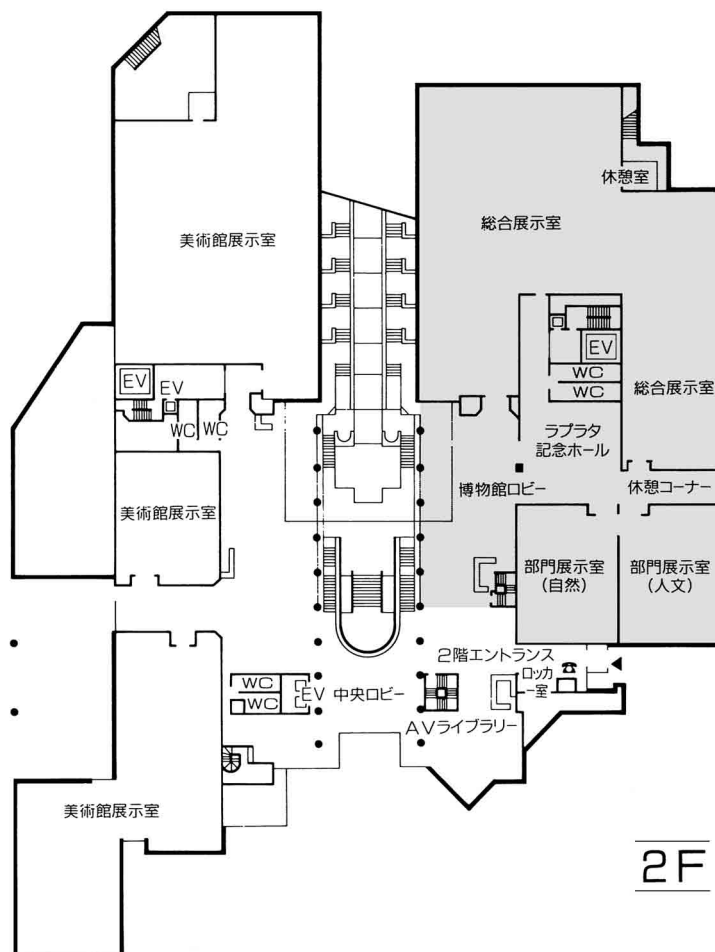
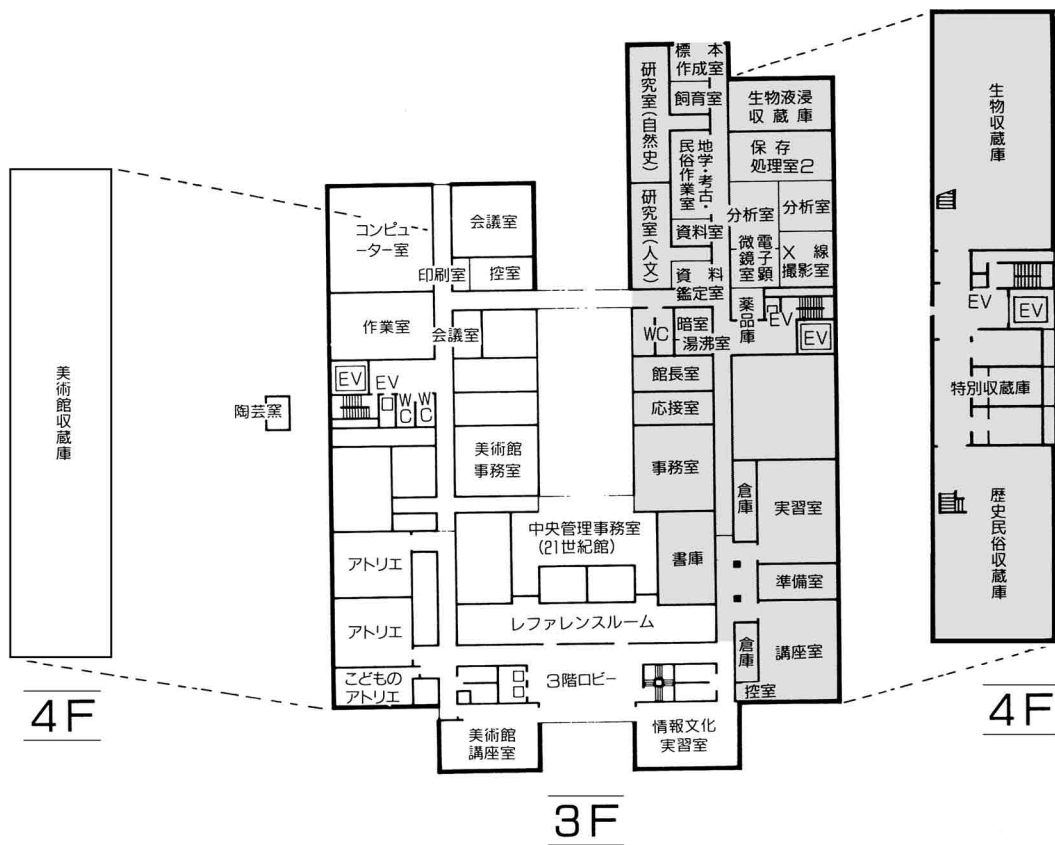
屋 1 階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合 計	
8,133㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占用スペース





Ⅵ 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例 [抜粋]

制 定 平成 2 年 3 月 26 日 徳島県条例第 11 号

最近改正 平成 9 年 3 月 28 日 徳島県条例第 34 号

(設置)

第 1 条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第 2 条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第 3 条 (省略)

(観覧料等)

第 4 条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第 1 に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第 5 条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第 6 条 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）及び博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第 7 条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体(20人以上をいう。以下同じ。)	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成20年3月28日 徳島県教育委員会規則第3号

第1章 総則（省略）

第2章 事務局（省略）

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に普及課、自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) 鳥居記念博物館に係る予算及び物品に関すること。
- (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター、少年自然の家及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する次長又は副館長(二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長)が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

(附属機関)

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成19年1月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、その額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てる。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者（昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。）の介護者（1名に限る。）、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者（1名に限る。）並びに精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者（1名に限る。）が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する祝日及び休日（1月1日を除く。以下「祝日という。）に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
- (6) 土曜日（祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (7) 日曜日（祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (8) 各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、秋季休業日、冬季休業日及び学年末休業日（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (9) その他徳島県立博物館長（以下「館長」という。）が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額

(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書（様式第1号）を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料の免除を承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保健福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号（省略）

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が適当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

●徳島県立博物館資料寄贈及び寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

最近改正 平成19年7月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則(平成2年徳島県教育委員会規則第9号) 第7条の規定に基づき、博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈及び寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(寄贈手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄贈しようとする者(以下「寄贈者」という。)は、あらかじめ徳島県立博物館長(以下「館長」という。)に資料寄贈申込書(様式第1号)を提出し、資料寄贈承諾書(様式第2号)の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄贈を受けたときは、寄贈者に資料受領書(様式第3号)を交付するものとする。

(寄託手続)

第3条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者(以下「寄託者」という。)は、あらかじめ館長に資料寄託申込書(様式第4号)を提出し、資料寄託承諾書(様式第5号)の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書(様式第6号)を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(受入基準)

第4条 館長は、資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

- (1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料
- (2) 博物館資料として展示等に活用できる資料
- (3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料
- (4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第5条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第3条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第3条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第6条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第7条 寄贈資料又は寄託資料の運搬等に要する費用については、寄贈者又は寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第8条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1～6号(省略)

徳島県立博物館年報 第18号（平成20年度）

平成21年（2009）8月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園内）

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター
